

Japan Hanggliding & Paragliding Federation

JHFレポート

2004年
春号

社団法人 日本ハング・パラグライディング連盟 発行 バックナンバーはウェブサイト▶ <http://jhf.skysports.or.jp/>



3月総会終了、定款の一部改正が決定。

3月15日、羽田空港ターミナルビル内のホールで、JHF2003年度3月通常総会を開催。2004年度の事業計画案・収支予算案が可決されました。また、JHF定款の一部改正が決まり、第1章(名称)第4章(役員を選任)第5章(会議)の一部が変わることに。定款改正は文部科学省の認可を得てはじめて正式なものになりますが、新年度から新しい名称「社団法人日本ハング・パラグライディング連盟」を使用することになりました。略称JHFは変わりません。

*2・3ページを参照

写真1: 総会で正会員に挨拶する朝日和博会長。

JHF共済がスタート。

ハンググライディング・パラグライディング愛好者が万一の事故に遭遇した時のための「JHF共済」が新年度開始とともにスタートしました。JHFフライヤー会員登録をすると自動的に加入できる第三者損害賠償責任保険は、その名のとおり第三者の怪我や損害に備えるもの。JHF共済はフライヤー自身の傷害等に備えるもので、会員の相互扶助の形をとり、ハンググライダーの事故も保障されます。詳しくはJHF共済のパンフレットをご覧ください。



PGアジア選手権、HG世界選手権にチーム派遣。

5月14日から26日まで韓国Hadongで開催される第1回パラグライディングアジア選手権、6月5日から18日までオーストリアGreifenburg&Bergで開催されるハンググライディング世界選手権(クラス2・クラス5・女子)に、それぞれ日本チームを派遣します。皆さん、海を越えて日本選手に熱いご声援を。尚、アジア選手権にはCIVLの要請により、インターナショナルジュリーとしてPG競技委員会の岡芳樹氏の派遣も決まっています。

*15ページを参照



2003年度教員研修検定会終了、10名が合格。

3月23日から26日まで静岡県富士宮市朝霧高原で、2003年度JHF教員研修検定会を実施しました。各地のスクール・エリアで教習活動をしている助教員20名(パラグライダー19名、ハンググライダー1名)が参加。文字どおり朝から晩までの研修と検定を受け、10名が全検定に合格、教員技能証を手にする事になりました。*7ページを参照

写真2: 講習斜面でグランドハンドリングの実技検定。日頃の鍛練ぶりを.....

学生リーグ優勝旗は日大理工EPOと筑波大アイオロスに。

3月に福岡県米山と和歌山県紀ノ川フライトパークで、ハンググライディングとパラグライディングの両学生リーグ最終戦が行われ、ハングは日本大学理工学部EPOが、パラは筑波大学アイオロスがリーグ優勝を果たしました。*8・9ページを参照

写真3: 2年連続優勝の日大理工EPO。リーグ個人戦でも永光秀明が優勝した。

写真4: リーグ優勝旗を手にした筑波大アイオロス。最終戦では木下悟が優勝。



JHFレポート 春号

P2-よりひらかれたJHFに。2003年度3月通常総会の報告 P4-事故ゼロをめざして P7-要の役割を担う教員に。JHF教員研修検定会の報告 P8-2003年度学生リーグ最終戦報告 P8-続・環境を考える P9-ココが知りたい! ワンポイントアドバイス P10-県連だより 新潟県パラ・ハンググライディング連盟 P11-県連ニュース P12-CIVL総会報告 P13-よりよい組織をめざして [理事に聞く] 荒井稔/理事会ダイジェスト P14-委員会の動き P15-@sky

今年度は季刊
2004年度に限りJHFレ
ポートは年4回の発行に
なりました。次号は7月
20日発行の予定です。

よりひらかれたJHFに。

2003年度3月通常総会の報告

2004年3月15日(月)13時から17時30分まで、東京都の羽田空港ターミナルビル「ビッグバード」6階ギャラクシーホールにおいて、JHF2003年度3月通常総会を開催しました。正会員(都道府県連盟代表)47名中、38名が出席。委任5名。議長には、福岡県ハング・パラグライディング連盟の小林秀彰氏が選任されました。

冒頭に、学生リーグを開催するなど、学生のハング・パラグライディング普及振興活動への積極的な取り組みに感謝し、朝日和博JHF会長から学生フライヤー連盟の野口和基理事長に感謝状が贈られました。

第1号議案

2004年度事業計画(案)について

神奈川県ハング・パラグライディング連盟の付帯動議提案により、まずJHF共済会設立の助成について採決。賛成31票、反対2票、棄権8票で可決。続いて理事会が提出した事業計画案が、賛成34票、反対3票、棄権4票で可決承認されました。

主な新事業として、JHF共済会の設立を助成、気象情報の提供、安全対策の強化、教員資格更新時の講習会や安全セミナーの開催、JHFウェブサイトのリニューアル、スクール登録・技能証の改革等を行うことが決まりました。

第2号議案

2004年度収支予算(案)について

フライヤー会員の減少傾向を見越した



感謝状を受取る学生連盟の野口和基理事長。



正会員はカードを手にして採決に加わる。

予算編成により、事務局管理費や事業費を大幅に見直した、理事会提出の収支予算案が、賛成37票、反対4票、棄権0票で可決承認されました。

2004年度収支予算のうちわけは、次ページ「JHF予算の遣いみち」のグラフをご覧ください。

第3号議案

定款の一部改正について

第1章、第1条 名称

社団法人日本ハンググライディング連盟(JAPAN HANGGLIDING FEDERATION)から、社団法人日本ハング・パラグライディング連盟(Japan Hang Gliding & Paragliding Federation)への名称変更

賛成36票、反対4票、棄権1票で、第1条の改正は可決承認されました。

第4章 役員の選任

・第4章(役員の選任)第13条1項「理事及び監事は総会において選挙で選任し、理事は互選で会長1名、副会長1名、常任理事を定める。」に、「なお、会長・副会長はこの法人の事業に関する営利を目的とする企業の役員であってはならない。」を追加。

・第4章(役員の選任)第13条2項「理事のうちいずれが1名とその親族その他特別の関係のある者の合計数は、理事現在数の3分の1を越えてはならない。」を「理事のうち、同一の親族(3親等以内の親族及びこの者と特別の関係にある者)特定の企業の関係者(役員、使用人、大株主等)所管する官庁の出身者が占める割合は、それぞれ理事現在数の3分の1以下とすること。また、同一の業界の関係者が占める割合は、理事現在数の3分の1以下とすること。」に変更。

・第4章(役員の選任)第13条3項「理事は第4条に定めるこの法人の事業に関する営利を目的とする企業の役員であってはならない。」を削除。

以上、役員の選任に関わる定款改正案は、賛成39票、反対1票、棄権1票で可決されました。

第5章 会議

第5章(総会の召集)第28条「通常総会は、毎年3月及び6月に会長が召集する。」を「通常総会は、毎年6月に会長が召集する。」に改める。

この改正案は、賛成40票、反対1票、棄権0票で可決されました。

これまで総会は原則として年に2回、3

月と6月に開催していましたが、2004年度より年1回、6月の開催になります。但し、定款の同条2項により、必要に応じて臨時総会を開催することができます。

第4号議案

資格取消又は停止について

青森県ハンググライディング連盟より上程された第4号議案「教員・助教員の資格取消又は効力停止について」は、JHF技能証規程(9)罰則に基づき、日本パラグライダー協会(JPA)の設立に関与した設立発起人・理事会構成員・顧問・正会員代表者及び関係社員のうち、JHF教員・助教員有資格者の資格取り消しまたは効力の停止処置を理事会に求めるというものでした。

これに対し朝日会長より、JPAが設立する前から話し合いを求めてきたが応じてもらえていないこと、JAAに入っていたのやりとり等を経て、2月理事会で当該教員の資格停止を審議したこと等の経過説明がありました。

青森県連盟はこれを受けて、この件について理事会が継続して審議するなら、議案上程の目的は達したことになるため、第4号議案を取り下げ、この総会の場で正会員の意見を聞き、理事会で決定してほしい」という要望に変更しました。

この要望に応え、理事会は総会に出席した正会員に意見を求めたうえで、朝日会長が「JPA設立発起人・理事会構成員・顧問のうち、JHF教員技能証有資格者に対し教員資格を一時停止する」ことを報告しました。

第5号議案

選挙管理委員の選任について

「JHF役員選挙規程 第2章 選挙組織(選挙管理委員会)」に則って、立候補した4名が2004年度～2005年度の選挙管理委員として選任されました。

選任された委員は以下のとおりです。

泉秀樹氏(神奈川県)
内田孝也氏(東京都)
西ヶ谷一志氏(埼玉県)
星野納氏(神奈川県)

*2004年度総会は6月23日(水)に東京都の羽田空港ターミナルビル「ビッグバード」6階ギャラクシーホールで行います。(3月総会の場で6月10日と発表しましたが、変更になりました。)

JHF予算の遣いみち

2004年度収支予算のうちわけ

前ページのとおり、3月15日の通常総会で、JHF2004年度収支予算案が承認されました。2004年度予算は、フライヤー会員の減少傾向を考慮し、事務局管理費や事業費を従来予算に比べて大幅に削減したものにになりました。

JHFの主な収入は、フライヤー会員登録

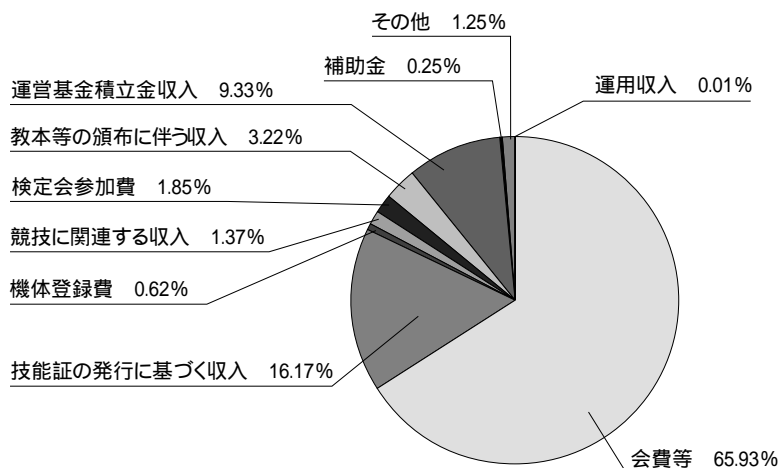
録費や各種技能証申請料です。つまり、このJHFレポートを読んでいるフライヤーの皆さん全員がJHFのスポンサーというわけですね。スポンサーとしては、自分のお金がどのように遣われているか、無関心ではられませんね。

さて、JHFフライヤー登録をしている

皆さんのお金が、2004年度はどのように活かされるのか、下のグラフで見てみましょう。

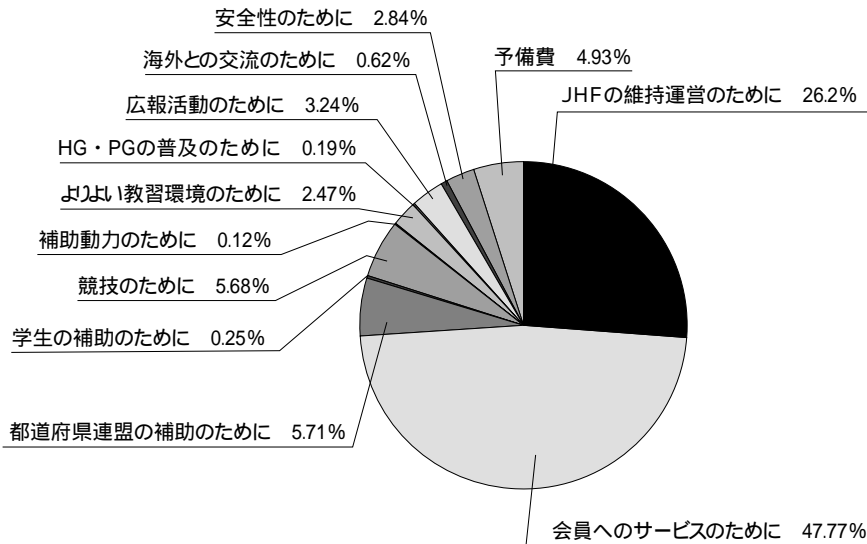
もっと詳しい金額を知りたいという方は、JHFウェブサイトをご覧ください。リニューアルして見やすくなりました。

収入の割合



運用収入	¥10,000
会費等	¥53,459,000
技能証の発行に基づく収入	¥13,112,800
機体登録費	¥500,000
競技に関連する収入	¥1,108,000
検定会参加費	¥1,500,000
教本等の頒布に伴う収入	¥2,612,000
運営基金積立金収入	¥7,565,200
補助金	¥200,000
その他	¥1,014,000
合計	¥81,081,000

支出の割合



JHFの維持運営のために	¥21,240,000
会員へのサービスのために	¥38,734,000
都道府県連盟の補助のために	¥4,626,000
学生の補助のために	¥200,000
競技のために	¥4,606,000
補助動力のために	¥100,000
よりよい教習環境のために	¥2,000,000
ハングパラグライダーの普及のために	¥150,000
広報活動のために	¥2,625,000
海外との交流のために	¥500,000
安全性のために	¥2,300,000
予備費	¥4,000,000
合計	¥81,081,000

教員資格停止処分に関して

社団法人日本ハング・パラグライディング連盟会長 朝日 和博

日本国内で統一された技能証制度のもと、フライヤー登録をし、連帯して社会的責任を担う。これがJHFの原点です。

昨年、他団体の発起人は再三の話し合いの要求にも応じずJPAを設立しました。事業者同士が協力して「安全と楽しいフライトの環境づくり」を目指すことは、むしろ望ましいことでもあります。し

かし、JHFと同じように技能証の発行とフライヤー登録を独自に行うことは、国内のまとまりを分断させ、その結果、多くのフライヤーや関係団体を混乱させてしまうことに気付かなければなりません。

この度はその警告の意味をこめて、残念ながら、JPA設立発起人・理事会構成員・顧問のうち、JHF教員技能証有資格

者に対して、JHF教員資格の停止処分をするに至りました。

JHFはフライヤーの集合体であり、日本国内のフライヤーの意志を代表する機関であります。事業者とも協力関係を結びながらスカイスポーツの発展に寄与していく使命をもっています。関係各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。

事故ゼロをめざして

安全に自由に飛び続けるために

JHF安全性委員会が2003年の事故報告（新聞報道のみの事故を含む）を次ページのようにまとめた。全部で32件。しかしこれが事故のすべてではない。手足の骨折程度では報告されないこともある。実際にはもっと多くの事故があり、数え切れないほどのインシデント（ひやりとした経験）があるはずだ。この報告のみで事故の傾向等を断じることはできないが、フライヤー各人が己の身に置き換えて「安全」を考える材料としてほしい。

32件のうちハンググライダー6件、パラグライダー19件、パラグライダーどうしの空中衝突2件、ハンググライダーとパラグライダーの空中衝突1件、動力付き4件。死亡者7名。亡くなった方のうち詳細がわかっている5名の飛行経験年数は、6年、8年、13年、14年、16年。長くやっていたら高い技能を持つとは限らないが「ベテラン」といっていい人たちだ。何故ベテランが重大事故を起こしたか。ベテランの事故の背景を考えよう。

機材の進歩に追いつかない

まず、パイロットの技術や知識が機材の進歩についていけないこと。どんな道具を買うときも格好がよく高性能のものを選びたいと思う。特にハンググライダーやパラグライダーでは、より高性能の機種を求める気持ちは当然。しかし、せっかくの高性能も、飛び手がそれを十分に理解し引き出す力を持たなければ、かえって始末の悪いものになる。「ベテランだから最新鋭機でない」と格好がつかない」と思い込んでいる人もいるようだが、機材を選ぶ際は自分の力とのバランスをよく考えるべきだ。

グライダーもハーネスも最新モデルでビシッとキメていながらあやしいテイクオフをする人がいる。しかし空中に出るとグングン高度を上げていく。何故か？

おそらく、そのパイロットは何年も前にテイクオフを学んだのだ。当時のグライダー、しかも練習機を使って。そして、そのやり方をずっと続けている。グライダーが進化しても、技術的にはスクール時代に覚えたやり方のままなのだ。それとも「ちゃんと辻褄が合ってテイクオフできればいいじゃないか」と思っているのかもしれない。しかしフライトのどの部分もおろそかにできないことは、この事故報告を読むまでもなく明白だ。

基本的なことがきちんとできる。それはとても大切。ベテランになればなるほ

ど、基本を身につけたのは昔のことだ。「今さらスクールでやることなんか」と思わず、白紙の状態に戻り、現在の基本を学ぶことが必要だ。大切なのは、つまらないプライドではない。ベテランだけでなく、これから経験を積んでいく人も、常に新しい情報に目を向け、自分の技術を更新していくことを忘れないでほしい。

慣れ

ベテランパイロットが陥り易い落とし穴のひとつに「慣れ」がある。いつも飛んでいるエリアなら、このコンディションではこう飛ぶというパターンができてしまう。また、様々な状況での飛行を経験してきて、たいていのことは切り抜けられると思ってしまう。しかし、自然はとんでもない変化を見せることがある。

たとえばランディング。ベテランパイロットには、風の向きと強さによって自分流のアプローチのパターンがあるだろう。そのパターンに乗ればもう大丈夫、あとはいつものように降りるだけ……という気持ちはないだろうか。

事故報告のなかには、ランディング間近で風が変わり……というケースがいくつかある。やはり無事に着陸するまで油断はできない。技術的には基本をしっかり復習し、精神的には初心にかえって、フライトの1本1本を大切に。それが安全に長く飛び続けることにつながる。常に謙虚であることを忘れてはならない。

体力・集中力の低下

心身ともに若いつもりでも、ハングやパラを始めた当時の体力や集中力を維持できているとは限らない。人間の脳は以前できたことをインプットしたまま、筋力が衰えても下方修正しないそうだ。高齢の方が小さな段差で転ぶのは、そんな段差はスッと踏み越えられたときの情報が頭にあるからだという。

フライトも同じ。ベテランパイロットは意識して、自分の体力や集中力を客観的に判断する必要がある。誰も加齢による衰えは考えたくないだろうが、仕方ないこと。むしろ自分の能力を客観的に見ることによって、衰えるスピードを緩やかにするための努力をしたり、フライト前夜には十二分な睡眠をとるなど、きちんとした自己管理ができるようになるだろう。

頑張りすぎ

ベテランパイロットはいろいろな場面に遭遇していることだろう。パラグライダーのキャノピーが潰れても、経験豊富な人は「このぐらい大丈夫」と考え、自分の操作で何とか元に戻そうと頑張る。「この程度でエマージェンシーパラシュートを開いていたらきりがない」と思う人もいる。それは、冷静に対処している、気持ちに余裕があることの証しかもしれない。しかし、場合によっては、頑張りすぎてパラシュートを投げる間もなく地面に激突ということも考えられる。パラシュートを開傘したら必ず助かるとは限らない。しかし「これはたいへんだ」と思ったら、頑張りすぎず、ためらうことなくパラシュートを投げるべきだ。

もうひとつの頑張りすぎ

ベテランパイロットは別の意味でも頑張りすぎることがある。ベテランゆえに「新参者には負けられない」と、ついつい無理をしてしまう。見栄を張って怪我をしたら本当につまらない。ブツ飛びでもいいではないか。もちろん誰かに負けたら悔しい。あいつにだけは負けたくないという気持ちは、きっと誰にでもある。しかし、せっかく広い空間で遊ぶスポーツなのだから、もっとゆったりした気持ちで楽しみたいものだ。

「さんなら飛べるでしょ」などと言われても、不安があれば飛ばない。荒れたコンディションでも飛んでしまうのは、勇気ある行為ではない。それは「無謀」というもの。ベテランパイロットにはぜひとも飛ばない勇気を持ってほしい。

ビギナーはベテランの背中を見て育つ。マナーを守り、常に謙虚であることを心掛け、何よりも安全を優先する。新しい情報を取り入れ、井の中の蛙、お山の大将にならない。ベテランにはそんな格好いいパイロットをめざしていただきたい。

飛行経験の浅い人も同じ。まず謙虚に。そして安全に楽しく。自分の安全は自分で守るのだということをしっかり認識し、自分自身を進化させていこう。空中では誰も助けてくれない。無線等でアドバイスを受けることはできても、グライダーをコントロールするのは自分自身なのだ。「生命」という非常に重たいものを持って飛んでいることを忘れてはいけない。

（JHF広報出版部 松田保子）

2003年ハンググライダー・パラグライダー事故概要(1月1日～12月31日) JHF安全性委員会作成

総件数32件(死亡7名、重傷18名、中/軽傷5名、無傷4名)

略号...HG:ハンググライダー

PG:パラグライダー

PW:補助動力付

†:死亡事故

No.1 PG

発生日時:1月13日(月)13:00頃

発生場所:埼玉県比企郡都幾川村勝平工リア

気象状況:天候=晴、風速=0~4m/s

事故者:32歳、男、PG・P証、飛行歴=5年1ヶ月

事故状況:右翼が30%潰れ高度を失い、別荘の屋根に衝突し地上に落下。肩、腕、足骨折。重傷2ヶ月。別荘の屋根および天窓を破損。経過:潰れの回復操作が間に合わず、緊急傘を投げたが開かなかった。

No.2 PG †

発生日時:1月25日(土)14:42頃

発生場所:静岡県田方郡函南町丹那工リア

気象状況:天候=晴、風速=4~5m/s

事故者:53歳、男、PG・P証、飛行歴=6年5ヶ月
事故状況:翼潰れ回復操作の反動で事故者がキャノピーに乗ってしまい、そのまま落下。骨盤骨折、肺臓破裂、死亡。

経過:潰れ回復時にキャノピーがシュート、事故者はキャノピーに乗った姿勢で対地高度100mから自由落下。なお、事故者は緊急傘のグリップを握っていた。

No.3 PG+PG

発生日時:1月26日(日)12:30頃

発生場所:静岡県富士宮市猪之頭工リア

気象状況:天候=晴/曇、風速=1~2m/s

事故者:A=41歳、男、PG・P証、飛行歴=8年

B=38歳、男、PG・P証、飛行歴=6年10ヶ月

事故状況:対地高度30~40mで空中接触。Aの右翼中央にBの身体が衝突し絡み合って墜落した。Aは股関節脱臼および骨折、重傷。Bは側頭部、脇腹、背中(いずれも右側)に打撲傷、重傷。

経過:双方とも右旋回でセンタリング中、ほぼ正対する形で接触。上下位置はBが高かった。接触後Bの身体がAのキャノピーに包まれる状態となり、どちら側も緊急傘は放出しなかった。

No.4 HG

発生日時:3月20日(木)14:00頃

発生場所:茨城県つくば市筑波山

気象状況:天候=曇、風速=?

事故者:28歳、男、HG・I証、飛行歴=7年7ヶ月

事故状況:乱気流により飛行姿勢を崩されタンプリングに入り機体を損傷、緊急傘を開いて降下。軽傷、機体大破、売店の底を損傷。経過:競技中。パイロン到達をあきらめ引き返す途中で乱気流に遭遇した。

No.5 HG

発生日時:3月21日(金・祭)15:00頃

発生場所:栃木県那須郡那須町鴻野山

気象状況:天候=晴、風速=4~5m/s

事故者:35歳、男、HG・XC証、飛行歴=10年

事故状況:不時着時に左翼が電線に接触、電柱に激突して落下。重傷(脳挫傷)機体大破。経過:競技中。板敷山から黒羽町へ向かったがコースを外れ、水田に不時着を試みたが最終旋回時に突風にあおられた。

No.6 PG

発生日時:3月23日(日)13:20頃

発生場所:茨城県新治郡八郷町足尾山工リア

気象状況:天候=快晴、風速=5~6m/s

事故者:53歳、男、PG・P証、飛行歴=4年5ヶ月

事故状況:ラフランディング。第一腰椎圧迫骨折、重傷。

経過:強風の中を着陸進入し、左翼が30%ほど潰れた状態で背風(斜め後方)接地。

No.7 PG

発生日時:3月30日(日)13:00頃

発生場所:岡山県上房郡北房町

気象状況:天候=晴、風速=3m/s

事故者:46歳、男、PG・XC証、飛行歴=10年

事故状況:電線に宙吊り。無傷、送電中止10~15分。

経過:着陸場の手前で-3m/sの下降風に遭遇、正面から電線に接触。

No.8 PG †

発生日時:3月30日(日)14:20頃

発生場所:岡山県倉敷市児島唐琴町王子ヶ岳工リア

気象状況:天候=晴、風速=3m/s

事故者:53歳、男、PG・P証、飛行歴=9年

(約1,000回)

事故状況:翼全体が潰れて落下。全身打撲、死亡。

経過:対地高度50mで右翼が1/3潰れ、さらに翼全体が失速し斜面に落下。

No.9 HG

発生日時:4月13日(日)14:15頃

発生場所:岐阜県揖斐郡池田町池田山工リア

気象状況:天候=快晴、風速=2~4m/s

事故者:27歳、男、HG・B級、飛行歴=6ヶ月

事故状況:高圧送電線に接触し墜落、外傷性脳内血腫、右胸と右肩に擦過傷、重傷。機体大破、温泉宿の屋根を損傷。

経過:着陸場の手前、高度150mで高度処理をはじめたが、最終旋回の停止が遅れ風下に流されて送電線に接触。

No.10 PG

発生日時:4月13日(日)16:10頃

発生場所:埼玉県比企郡八都幾川村彩の国こまち工リア

気象状況:天候=晴、風速=2m/s

事故者:36歳、男、PG・B級、飛行歴=5年11ヶ月

事故状況:失速着陸。右足骨折、重傷、4ヶ月。経過:低空旋回し高度2~3mで失速、接地時に両足を強打。

No.11 PG

発生日時:5月4日(日)14:30頃

発生場所:大分県玖珠郡玖珠町伐株山工リア

気象状況:天候=晴、風速=?

事故者:43歳、男、PG・XC証、飛行歴=12年4ヶ月

事故状況:翼が潰れ墜落。肋骨骨折、重傷。経過:潰れの回復操作が遅れ、温泉施設の屋根に落下。

No.12 PG

発生日時:5月24日(土)12:00頃

発生場所:福島県安達郡東和町羽山西工リア

気象状況:天候=曇、風速=0~2m/s

事故者:31歳、男、PG・P証、飛行歴=7年2ヶ月

事故状況:離陸に失敗し岩に激突。第4腰椎粉碎骨折、重傷3ヶ月。

経過:離陸中止の判断が遅れ、加速がつかぬまま崖下に落下。

No.13 PW-PG

発生日時:6月22日(日)17:00頃

発生場所:宮城県本吉郡本吉町

気象状況:天候=?、風速=?

事故者:56歳、男、PG・P証、飛行歴=9年10ヶ月

事故状況:川に着水。軽傷(水を大量に呑んだため経過入院)。

経過:高度20mで翼が潰れハードランディング状態で水没。ライフジャケットは着用していなかった。

No.14 HG+PG †

発生日時:7月27日(日)13:30頃

発生場所:秋田県雄勝郡稲川町国見岳工リア

気象状況:天候=晴、風速=3m/s

事故者:A(HG)=47歳、男、HG・P証、飛行歴=13年 B(PG)=50歳、男、PG・P証、飛行歴=6年6ヶ月

事故状況:対地高度約50mで空中接触し双方とも墜落。Aは全身強打および頭部、頸部、肋骨骨折、死亡。Bは頸部打撲、軽傷。

経過:競技中、着陸場の手前約300mで空中接触し、AのベースパーとBの左翼吊索が絡み合った状態で墜落した。相対位置はBが低く、どちら側も緊急傘を放出しなかった。

No.15 PG

(新聞報道のみ・非公式情報)

発生日時:8月3日(日)7:30頃

発生場所:静岡県富士宮市富士山山頂付近

気象状況:天候=?、風速=?

事故者:39歳、男、PG・XC証、飛行歴=11年

事故状況:岩場に墜落。腕および両足骨折、重傷。

経過:離陸準備中に突風を受けて舞い上がり、10mほど離れた岩場に落下。詳細は不明。

事故ゼロをめざして

No.16 PG †

発生日時:8月3日(日)12:30頃
 発生場所:福岡県京都郡苅田町平尾台エリア
 気象状況:天候=晴、風速=0~2m/s
 事故者:46歳、女、PG-XC証、飛行歴=14年
 事故状況:高度処理中スパイラルダイブに入り民家の屋根に激突。死亡。民家の屋根を損傷。
 経過:対地高度500m付近で高度処理を始め、3回転あたりから深いスパイラルに入り、回復せぬまま落下。

No.17 PG †

発生日時:8月10日(日)11:00頃
 発生場所:静岡県富士宮市猪之頭エリア
 気象状況:天候=晴、風速=3~4m/s
 事故者:58歳、男、PG-P証、飛行歴=16年
 事故状況:離陸後間もなくテイクオフ右側の吹流しポール付近に墜落。両足および肋骨骨折、外傷性ショック、2時間後に死亡。
 経過:離陸し安定滑空に入ったところで右旋回し落下。旋回が風下に流されて、下降気流に遭遇したものであるが詳細は不明。

No.18 PG

発生日時:8月20日(水)10:30頃
 発生場所:長野県下高井郡木島平村木島平スカイスポーツエリア
 気象状況:天候=晴、風速=0~1m/s
 事故者:48歳、女、1日体験者
 事故状況:離陸操作を誤り再接地。左足脛骨および腓骨骨折、重傷。
 経過:1日体験コース中。離陸後の高さが不十分(約50cm)だったため、ブレークコードを引くよう指示されたが逆に緩めてしまい、左足から再接地し前方へ転倒。

No.19 PG

発生日時:8月21日(木)15:15頃
 発生場所:長野県北安曇郡白馬白馬パラトピア五龍エリア
 気象状況:天候=晴、風速=1~2m/s
 事故者:41歳、女、PG-B級、飛行歴=5年
 事故状況:空中接触し、スパイラル状態のまま接地。肋骨および腰椎骨折、重傷。
 経過:他機の発見が遅れ後方から接触。両者の絡み合いが解けた際に潰れは回復したがスパイラルに入り、回復できぬまま高度100mから落下。接触した相手は無事。

No.20 PG

発生日時:8月21日(木)15:20頃
 発生場所:静岡県田方郡函南町丹那エリア
 気象状況:天候=晴、風速=3m/s
 事故者:60歳、女、PG-XC証、飛行歴=9年
 事故状況:樹上に降下。無傷、機体は全損。
 経過:ソアリング中に高度を下げすぎて旋回できず、風下に流されて高さ4mの木に宙吊りとなる。1時間半後、消防署員により救出。

No.21 HG

発生日時:9月7日(日)12:30頃

発生場所:岐阜県揖斐郡池田町池田山エリア
 気象状況:天候=晴、風速=6m/s
 事故者:50歳、男、HG-P証、飛行歴=14年
 事故状況:着陸最終進入中にクラッシュ。頸部損傷、重体。機体小破。
 経過:手をベースバーからアップライトへ持ち替えた際にストール。操縦不能となって180度右回転し翼端接地。

No.22 PW-HG

(新聞報道のみ・非公式情報)
 発生日時:9月14日(日)14:40頃
 発生場所:沖縄県中頭郡西原町
 気象状況:天候=?、風速=?
 事故者:50歳代、男、技能/飛行歴=不詳
 事故状況:高度20~30mから墜落。重体。
 経過:エンジン調整中意図に反して離陸したものと推定されるが、直接の目撃者がいないため詳細は不明。

No.23 PG

発生日時:9月14日(日)14:30頃
 発生場所:茨城県新治郡八郷町足尾エリア
 気象状況:天候=晴、風速=5m/s
 事故者:32歳、女、PG-P証、飛行歴=11年
 事故状況:振り子状態で接地。腰椎圧迫骨折、重傷(6ヶ月)。
 経過:最終進入経路でローターに遭遇。翼の潰れによるピッチングが振り子現象を誘発。

No.24 PG

発生日時:9月28日(日)14:30頃
 発生場所:栃木県宇都宮市スカイパーク宇都宮エリア
 気象状況:天候=曇、風速=3m/s
 事故者:54歳、女、PG-P証、飛行歴=4年
 事故状況:他機の翼を足に引っ掛けて飛行し、木の枝で損傷させた。無傷、他機の翼は全損。
 経過:離陸の際、横で準備中だった機体の吊索に足を引っ掛け、そのまま離陸。

No.25 PG

発生日時:10月5日(日)14:00頃
 発生場所:茨城県新治郡八郷町足尾エリア
 気象状況:天候=晴、風速=5m/s
 事故者:60歳、男、PG-P証、飛行歴=5年
 事故状況:振り子状態で接地。重傷。
 経過:高度処理中フラットスピンに入る。180度ほど回転後に回復したが振り子状態となり、フレアが間に合わず腰もしくは尻から接地。

No.26 PG †

(新聞報道のみ・非公式情報)
 発生日時:11月1日(土)14:35頃
 発生場所:徳島県那賀郡木沢村剣山頂上付近
 気象状況:天候=?、風速=?
 事故者:54歳、男、技能証=なし、飛行歴=?
 事故状況:墜落しているのを登山者が発見。頭部強打、死亡。
 経過:単独行動のため墜落に至る経緯は不明。

No.27 HG

発生日時:11月24日(日)12:30頃
 発生場所:茨城県新治郡八郷町足尾エリア
 気象状況:天候=曇、風速=3m/s
 事故者:20歳、女、HG-B級、飛行歴=1ヶ月(12回)
 事故状況:ノーズクラッシュ接地。左上腕骨骨折、重傷。
 経過:フレアをかけた際にバランスを崩しめかるみに接地。セフティホイールが回転せずに停止したためノーズクラッシュ。

No.28 PW-HG †

(新聞報道のみ・非公式情報)
 発生日時:12月6日(土)12:00頃
 発生場所:宮崎県都城市
 気象状況:天候=?、風速=約3m/s
 事故者:48歳、男、HG-P証
 事故状況:高度40mから墜落。全身打撲、内臓破裂、死亡。
 経過:失速しスピン状態で落下。

No.29 HG

発生日時:12月14日(日)11:30頃
 発生場所:茨城県新治郡八郷町
 気象状況:天候=快晴、風速=2m/s
 事故者:19歳、女、HG-B級、飛行歴=5ヶ月(36回)
 事故状況:最終旋回時に民家の屋根へ落下。軽傷(右腕等)落下した民家の2階屋根を損傷。
 経過:旋回中に翼端が立木と接触。

No.30 PG

(新聞報道のみ・非公式情報)
 発生日時:12月14日(日)11:30頃
 発生場所:茨城県新治郡八郷町
 気象状況:天候=晴、風速=2m/s
 事故者:63歳、男、PG-P証(補助動力、タンデム)飛行歴=12年
 事故状況:高度200mから墜落。頭部強打、重体(意識不明)。
 経過:スパイラル状態で落下したと推定されるが、詳細は不明。

No.31 PW-PG

発生日時:12月14日(日)15:00頃
 発生場所:静岡県数地大浜海岸
 気象状況:天候=?、風速=1~2m/s
 事故者:54歳、男、MPG-P証
 事故状況:海上に着水。無傷。
 経過:プロペラの異常音に気づき、戻ろうとしたが追い風で沈下が大きく、陸上まで戻れなかった。

No.32 PG

発生日時:12月31日(水)14:00頃
 発生場所:茨城県新治郡八郷町
 気象状況:天候=快晴、風速=2~3m/s
 事故者:20歳、男、HG-P証、PG-B級、飛行歴=1年4ヶ月(PG10回)
 事故状況:樹上に降下。足切傷(4針)軽傷。
 経過:高度処理の際の沈下が大きく、林にショートランディング。

要の役割を担う教員に。

JHF教員研修検定会の報告

3月23日から26日までの4日間、静岡県富士宮市朝霧高原において「2003年度JHF教員研修検定会」を実施した。各地のスクール・エリアで教習活動をしている助教員20名(パラグライダー19名、ハングライダー1名)が参加。文字どおり朝から晩までの研修と検定を受け、パラグライダー9名、ハングライダー1名、合わせて10名が全検定に合格、教員技能証を手にする事になった。

研修・検定の内容

外部の講師も招いた研修と検定を以下のように行った。検定は、飛行実技(生徒に正しく教えられるか、模範飛行ができるか)、教習実技(生徒に飛行理論等をわかりやすく説明できるか)そして学科(指導者として必要な知識を持っているか)の三種。彼岸すぎながら雪が舞うなど悪天候の日があり、時間割りを変更したこともあったが、予定した内容はすべて実施することができた。

3月23日(火)

- ・講義「指導と教育」
講師:中台章(PG教員)
- ・教習実技検定
- ・講義「航空力学とパラグライダー特性」
講師:赤坂剛史(パラグライダー、柔軟翼研究分野における国内唯一の工学博士、パラグライダーの飛行特性及び運動方程式を発表。)

3月24日(水)

- ・飛行実技検定
グランドハンドリング・ショートフライト等の模範飛行
- ・朝霧高原猪之頭エリア安全講習会
- ・講義「機材と安全」
講師:岡芳樹(安全性委員会委員)
講師:下山進(安全性委員会委員)
- ・普通救命講習
講師:富士宮消防署
全員が修了証をいただいた。

3月25日(木)

- ・講義「ツリーランディング救助とガイディング」
講師:近藤謙司(登山ガイド、アドベン

チャーガイズ所属。チョモランマ冬季北壁最高地点到達者。「パラグライダー(同朋社出版)」著者。)

- ・飛行実技検定
高高度飛行
連続360度旋回、ピッチング、ローリング、15m以内のランディング 片翼潰し(30%)、両翼端折り、オーバーヘッドアプローチによるランディング
- ・講義「パラグライダーとハングライダーの構造等の違い」
講師:坂本三津也(HG&PG教員)
- ・学科検定
3月26日
- ・講義「ハングライダーとパラグライダーの共生」
講師:坂本三津也(HG&PG教員)
- ・講義「リスクマネジメント」
講師:泉秀樹(保険代理業、牧田商会、神奈川県ハング・パラグライディング連盟所属)

- ・JHF共済の説明
担当:小林秀彰(制度委員会委員長)
- ・アンケート(この研修検定会について)
- ・間違った学科問題の復習(正解を書く)
- ・個人面談

教員に求められるもの

教員は、スクール等での教習活動のほか、各地域のハング・パラグライディングへの理解を深めてもらうために尽力したり、より多くの人にこのスポーツへの興味を持ってもらえるよう働きかけたり……と、ハング・パラグライディングと社会との接点に立って「要」の役割を果たしている。実績ある競技選手のような華やかさはないが、このスポーツを代表する存在といっていいたろう。実際、教員の働きがなければ、現在のハング・パラグライディングはない。

今回の検定に合格した10名の方も近く教員として活躍することになる。教員技能証をゴールとせず、広い視野を持って、ここからさらに高く飛躍してほしい。皆が手本にするような格好良いインストラクターになっていただきたい。

また、教員は、グライダーに初めて触る初心者を手にするのだから、正しい機体操作を教えたり模範飛行をして見せる能力はもちろん、飛行理論をわかりやすく説明したり、安全飛行の心構えをきちんと伝える能力も必要だ。当然、JHF教員技能証を持つ人は、これらの能力を持っていると認められたわけだが、機材や飛行技術はどんどん進化していく。それらの進化に合わせて、教員も自ら進化しなければならない。新しい情報を取り入れ、自分の技術や指導方法を常に見直していく必要がある。

JHFは2004年度から、教員資格更新時に講習会に参加することを義務とした。更新講習会では、飛行や機材、安全等に関する最新情報を提供して、教員の進化の手助けをする。受講しながら他のエリアの教員と交流し情報を交換することによって、よい刺激を受け、教習の安全性をさらに高める工夫もできるだろう。

今回の教員研修検定会では、最終日に、学科検定で間違ったところを各自復習し正解を書く時間が設けられた。自分がなぜ間違ったのかをきちんと理解したうえで、正しい答えを得てほしい。そう考えた教習検定委員と検定員が、参加者全員の個人面談を行い、復習した内容を確認し、一人ひとりのよかった点、悪かった点、努力すべきこと等を伝えた。また、これまでと異なり、可否をその場で各人に知らせた。合格した人もできなかった人も、自分の能力を客観的に見て、今後の課題は何か、はっきりしたことだろう。

JHFもまた「参加者の負担の少ない、より充実した教員検定会」という課題を乗り越える努力を始めている。

*協力:静岡県フライヤー連盟、スカイ朝霧
*この教員研修講習会は、昨年11月の実施予定で、JHF教習検定委員会が準備を進めていたが、他団体の設立に伴い複数の委員が辞任したため、急遽実施を延期。新たなメンバーで計画を練り直し、年度末の実施となった。



机を並べて講義を聞く。坂本講師、入魂の講義。



講習斜面でグランドハンドリングの実技検定。



検定員や他の参加者を講習生に見立て模擬講習。

2003年度学生リーグ最終戦報告

第8回ハンググライディング学生選手権 in 米山

2日目は晴天。気合いをこめてセットアップ。



HG学生リーグの千秋楽「ハンググライディング学生選手権」が、3月6日から9日まで福岡県篠栗町米山(こめのやま)エリアで開催された。米山での学生選手権開催は初めて。1stクラスのための競技だったが、全国からたくさんの学生フライヤーが集結した。

大会初日は、強風の中セットアップするも、条件が回復せずキャンセル。夕方、ダミーの加藤実さんがフライトする様子を選手全員で眺め、2日目以降の競技に向けてみな闘志を燃やす。

2日目は朝から晴天となり、正午前にテイクオフしたダミーが次々にサーマルヒット。ゲートオープンと同時に続々と選手がテイクオフしていった。しばらくすると条件が渋くなり、ゲートオープンしてすぐさまテイクオフした選手はデパーチャーオープンまでにしっかりと高度を稼ぐことが出来たが、出遅れた選手

は高度を稼ぐことが難しいという展開となった。さらに時間がたつと風向きがサイドとなり、一時ゲートクローズするほど。しかし選手たちは日頃鍛えた己のテイクオフ技術を信じて次々とテイクオフしていく。何とかゲートクローズ時間までにぎりぎり全選手がテイクオフすることが出来た。ゲートクローズ30分前くらいから今度は逆に安定して高度が下がらない好条件となり、この頃にテイクオフした選手はみなそこそこの飛びが出来た。

20.0kmタスクで選手39名中7名がゴール。トップの永光秀明選手(日本大学)は、わずか24分50秒でゴールし、実力を見せつける結果となった。また、角あり勢では、山口大学の松浦選手が女性ながらも10位入賞と健闘した。その夜開かれたレセプションでは、今大会の競技委員長であるWing890インストラクターの木山巴千生さんが用意してくれた玄界灘産の海の幸などに加え、スタッフの用意したキムチ鍋と水炊き、炒飯、地酒などが大好評で、また各選手の個性的(?)な芸により盛り上がりは最高潮となった。

3日目は、前日の予報通り朝からフォロワーが吹いており、早々にキャンセルが決定。結局2日目の成績がそのまま大会

報告:藤田修平 写真:角屋 一

結果となり、永光選手が学生選手権の座についた。また今大会で2003年度HG学生リーグの個人・団体の総合優勝も決定し、個人の部では永光選手、団体の部では日本大学理工学部EPOが2年連続で栄冠に輝いた。

今回、九州では4年ぶり2回目の学生選手権であった。主催者側としては大きな事故もなく無事競技を終了することができ、本当に満足のいく大会になった。全国の学生フライヤーの絆がより一層深まったことだろう。

上位選手

1位	永光 秀明	EPO	406点
2位	寺本 隆志	Zephyr	357点
3位	伊藤 宙陸	AIOLOS	346点
4位	野口 和基	Zephyr	325点
5位	遠藤 峰	日文ハング	284点
6位	高井 智司	素裸夢反愚	257点
6位	黒部 克典	EPO	257点



トップ3。左から伊藤、永光、寺本各選手。

続・環境を考える。

前号の「環境を考える」の補足です。

2003年9月17日、ポリエステルの完全リサイクルが可能になったという情報を得て、JHF安全性委員会が企画し、ポリエステルを製造し、ポリエステルの完全循環型リサイクルシステムの確立に取り組むテイジングループから森下氏を迎えて「ハング・パラ機体のリサイクルについて考える(航空スポーツの環境に及ぼす影響)」会を行いました。

リサイクルには、製品を分解して原材料まで戻して再利用する「ケミカルリサイクル」、製品を中間素材まで戻し、別の製品にする「マテリアルリサイクル」、製品を燃焼させ、熱エネルギーとして利用する「サーマルリサイクル」と、3つの方法があります。森下氏の説明によると、ポリエステルのケミカルリサイクルは、製品を細かく破碎したものを粒状にして、その造粒物を化学反応させて精製し、テレフタル酸ジメチルというポリエステル原料にして製品として再利用するもので

す。この技術によると、パーズン品と同じレベルの品質になり、100%完全リサイクルが可能になるとのことでした。

この技術がハングやパラグライダーの素材にも当てはまれば、そこから新しい試みも始まるかと期待したのですが、大きな障壁があることが明らかになりました。前号にも書いたように、ハングのセールやパラグライダーのキャノピーには、紫外線や湿気を防ぐためのコーティングがされています。ポリエステルの完全リサイクルのガイドラインは厳しく、アクリル、ポリウレタン混は対象外です。セールやキャノピーのコーティングは、シリコンやポリウレタン系であり、現段階ではケミカルリサイクルによる完全リサイクルはできないとのことでした。コストを無視し労力を惜しまなければ可能なかもしれませんが、それではリサイクル本来の意味をなしません。リサイクルするために、無駄なエネルギー浪費をしかねないからです。

しかしながら、マテリアルリサイクルは可能ということが分かりました。既にペットボトルや発泡スチロール、牛乳パック等はこの方法でリサイクルしています。スーパーマーケット等で回収ボックスが設けられているのを目にしたことのある方も多いと思います。家庭の台所をあずかる主婦(主夫)の方には常識となっているかもしれません。

不要となったハンググライダーやパラグライダーが別の製品に生まれ変わる。これは技術的に可能なことなのです。しかし原料とするための資源が安定して供給できるのか。また、リサイクルに伴うインフラの整備はどうするのか.....等々、解決していかなければならない問題がたくさんあります。

私たちフライヤーが環境について考え続け、知恵を出し合うことで、問題の答えを導き出せるのかもしれない。

(JHF広報出版部 松原正幸)

パラフェスタ2004 in 紀ノ川

報告:板野 浩

3月10日から13日までの4日間、和歌山県の紀ノ川フライトパークにて、学生リーグの年度末最後の大会「パラフェスタ2004 in 紀ノ川」が開催されました。大会参加者は、北は青森から南は熊本まで、1st・2nd合わせて約30名。大会日程は競技3日間と最終日が閉会式のみでの予定でした。しかし、1日目はフォローの10m近い強風、サブランディング場を見学して終了。続く2日目もフォローでキャンセル、宿舎で各大学の交流会。最後の3日目はどんよりとした曇り空に小雨、風も強くキャンセル。各々ランディング場にて立ち上げ練習……強い寒気のため3日間1本も飛ばず、ランディング場での立ち上げが少し出来たのみという苦しい結果に終わりそうになりました。閉会式の日も予報を見る限りではかなりの好条件が期待でき、なんとか飛びたいという選手一同の願いを、エリア管理側と地元フライヤーの皆さんが理解してくださり、一般フライヤーの多い土曜日であるにも関わらず、競技日程を延長できることとなりました。

そうして迎えた大会最終日。前日までとは打って変わって天候も良く暖かな日差しの中、梅と桃の咲き乱れる山へ早々に登頂することに。まずデューレーションの2ndクラスがゲートオープン。やや強めの

風の中サーマルも順調にできあがり、1stクラスも10kmのショートタスクで開始。テイクオフ上空に数十機ものパラが飛び立ち、とても壮観な景色でした。結果は1stクラスのゴール者6名。山沿いの往復がメインのタスクではありましたが、最後に沖に向かうパイロンもあり、内容も十分ある競技となりました。大きな事故等も無く、参加選手皆に競技を楽しんでもらうことができ本当に良かったと思います。

閉会式では今大会の表彰と共に、学生リーグの成績発表も行い、2003年度の団体優勝として、筑波大学アイオロスに学生リーグ優勝旗が授与されることになりました。

最後になりましたが、リフライト無制限という忙しい条件の下、最も大変なテイクオフ・ランディングディレクターを引き受けてくださった片岡義夫氏・坂本三津也氏をはじめ、今大会の運営に関わってくださった全ての方々にこの場を借りて感謝したいと思います。素晴らしい大会をありがとうございました。

上位選手

[1stクラス]

- 1位 木下 悟 筑波大学アイオロス
- 2位 川上 賢一 大阪大学 P.F.C.



最後の最後にやっと飛べる!

- 3位 村上 恭子 筑波大学アイオロス
- 4位 友澤 一成 日本大学EPO
- 5位 寺尾 有貴 東京電機大学ZIPS
- 6位 山下 広輔 武蔵工業大学SKY VIEW

[2ndクラス]

- 1位 小口 傑 東京工業大学SYLPH
- 2位 笠井 智子 筑波大学アイオロス
- 3位 鯨井 雄太 日本大学EPO
- 3位 椋本 佳宏 日本大学EPO



左から川上、木下、村上、友澤、寺尾、山下各選手。

ココが知りたい! ワンポイントアドバイス

講師:加賀山務

皆さんこんにちは、『ココが知りたい!』臨時雇い講師の加賀山です。今回は、前号掲載『ココが知りたい!』の「起き上がる時にライザーは?」の項について読者から問い合わせが殺到(うそ)し、補足説明が必要となりましたので再登場しました。問い合わせとはズバリ「イエイ!って何?」スペースの都合で写真を載せられなかったので、イメージがつかめなかったんですね。

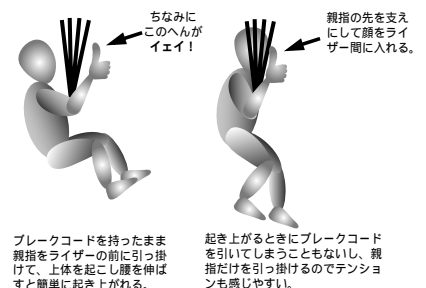
前号本文参照:ブレイクコードを持ったまま両手の「親指」を立てライザーの前に引っ掛けて「イエイ!」という感じで顔をライザーの間に起こして、背筋を伸ばせば、一発で起き上がれますよ。腰を伸ばすときに上体が後ろに行きやすいんですが、軽く親指でライザーを支えるだけで上体が後ろに下がるのを防げますよ。

ランディング前に身体を起こせない人にかなり有益な情報だと思いますが、肝心の「イエイ!」がわからなければ何のことやらさっぱり……。

そこで! あえて自分を捨てて「イエイ!」の真髄をご紹介します。これです!



往年のスター(死語)達の決めポーズとして一世を風靡したこのポーズが「イエイ!」です。ポイントは親指を立てることですね。ってこんなこと言いたいわけではないのですが、身体のバランスがうまく取れなくて起き上がりに苦労してる人、使えるものは何でも使うべし!というわけで、簡単にジタバタしないで済む起き上がり方を紹介したので、写真のように親指を立てて、その親指をライザーに引っ掛けて起き上がるという単純明快な荒業です。一度しっかり起き上がってしまえば、その後に身体が



ブレイクコードを持ったまま親指をライザーの前に引っ掛けて、上体を起こし腰を伸ばすと簡単に起き上がる。

起き上がるときにブレイクコードを引いてしまうこともないし、親指だけを引っ掛けるのでテンションも感じやすい。

ふらつくこともないはず。起き上がるのに苦労するよう方は是非お試しください。

注)ライザーを持つのは良くないというのが基本ですが、ハーネスの中で身体を自由に動かせる人は既にベテランです。身体がふらついたり、うまく起き上がれない方は、そのために怖い思いをしたりリスクをおかす必要はありません。使えるものは何でも使って身体を安定させたり、起き上がったりするほうが、モアベターでしょう。ただ、補助がなければうまく起き上がれない場合はハーネスセッティングに問題があるかも。その点もチェックしてみましょうね。

県
連
だ
よ
り



尾神岳上空からTOポイントを見る。



整備された尾神岳のTOポイント。



鳴倉山のTOポイントから。

危険というイメージを変える努力を。 新潟県パラ・ハンググライディング連盟
理事長 永井 守

今年は日本選手権を

新潟県パラ・ハンググライディング連盟の今年度活動として現在決まっているのは、5月22日・23日開催の鳴倉カップと同月29日・30日開催の尾神カップ、二つのパラグライディング大会を後援すること。尾神岳でのパラグライディング日本選手権開催に向けての準備も進行中です。尾神岳は過去に2回日本選手権の舞台になったのですが、残念ながら2回とも不成立。今年こそはぜひ!と、みな意気込んでいます。また、2009年に開かれる新潟国体の公開競技としてパラグライディング・ハンググライディングを取り上げてもらえるよう、県連盟として働きかけもしています。

空を飛ぶ者にとって安全は最も大切。事故が減り「危険」だというイメージが変われば、スカイスports愛好者も増えるでしょう。新潟県パラ・ハンググライディング連盟一同、事故ゼロをめざして努力していきたいと思ひます。

新潟県は魅力いっぱい

新潟県は積雪が多く、冬の間フライトはお預け。4月から11月がシーズンです。雪が消え新緑が芽吹く時期になったら、みな活発に動き始めます。豊かな自然のなかで思いっきり飛んだ後は、海の幸・山の幸を楽しんだり、温泉で手足をのぼしてじょんのび(のんびり)したり……。米どころ新潟は、酒どころとしても有名です。仲間と杯を交わしながらの語らいは、まさに至福のひとつ。全国の皆さん、ぜひ新潟に遊びに来てください。以下は、県内の代表的なエリア。ほかにもいい場所がありますよ。

弥彦(やひこ)

ハンググライダー & パラグライダー
三島郡寺泊町野積
北陸自動車道三条燕ICから30分

ハンググライダーが日本に入ってきて間もない頃からのエリア。テイクオフポイントから日本海と佐渡を一望できます。安定した海風で飛べ、ランディング場は広い砂浜なので、初心者からベテランまで幅広く楽しめます。離着陸場の高度差は430m、距離1800m。春と秋にはクロスカントリー飛行も。ランディング場は海水浴場なので、夏はギャラリー多数。近くに観光ポイントが多く、宿泊施設もあります。

問い合わせ:ウエストウインド
TEL&FAX.0256-52-5081
E-mail westwind@ginzado.ne.jp
URL <http://www.ginzado.ne.jp/westwind>
尾神岳(おかみだけ)

ハンググライダー & パラグライダー
中頸城郡吉川町尾神
北陸自動車道柿崎ICから30分

尾神岳は日本海に面した台形の山。広い山頂(標高645m)からテイクオフします。リッジ/サーマルソアリングがしやすく、トップランディングも可能。離着陸場の高度差は380m、距離1400m。西斜面なので、サーマルは13時~15時頃が良好です。エリア整備や大会運営など、地元の吉川町の応援が大きく、山頂に水洗トイレがあるほど設備が充実。近くに宿泊施設もあります。

問い合わせ:S.E.T.尾神岳
TEL&FAX.025-547-2066
E-mail skyokami@f7.dion.ne.jp
URL <http://www.h3.dion.ne.jp/skyokami>

鳴倉山(なりくらやま)

ハンググライダー & パラグライダー
北魚沼郡小出町上原
関越自動車道小出ICから3分

県内随一のサーマルエリア。4月下旬から5月上旬のサーマルは格別です。海拔高度が低いため夏場でも1,000m以上のゲインが可能(テイクオフ標高540m)。9月中旬からは刈り取り後の田圃が利用できるのでランディングも広く、クロスカントリー飛行もOKです。離着陸場の高度差は420m、距離2000m。湯ノ谷温泉郷に接しており、温泉入浴施設が多数あるのも嬉しいエリアです。問い合わせ:スカイショップ鳴倉山(南雲昌孝)TEL&FAX.02579-2-7837

Email mmy@niigata-koide.com
URL <http://www.niigata-koide.com>

舞子(まいこ)
パラグライダーのみ
南魚沼郡塩沢町
関越自動車道塩沢石打ICから3分

舞子後楽園スキー場エリア。北の風がからめばフライトできます。ベストシーズンは春から梅雨入りまで。整備されたスキーゲレンデの上を飛ぶので、初心者も楽な気持ちでフライトできます。離着陸場の高度差は380m、距離900m。今年は4月29日にエリアオープンの予定です。問い合わせ:上越パラグライダースクール(スポーツヴィラB&W内)
TEL.025-783-3802 FAX:025-783-3885
URL <http://www.b-and-w.co.jp/>

新潟県連盟の連絡先:事務局
〒949-6366 新潟県南魚沼郡塩沢町君沢1673-26 スポーツヴィラB&W内
TEL:025-783-3802 FAX:025-783-3885

県連ニュース

宮城県ハンググライディング連盟

[県連ホームページを開設]

当連盟のホームページができました。大会・遠征の際はぜひご利用ください。
<http://mkenren.s51.xrea.com/>

また、尾形梅三郎新理事長が就任しましたのでお知らせします。

[記:池辺由加里]



福島県ハンググライディング連盟

[講習会で正しい知識と技術を提供]

当連盟は160名ほどの会員があり、9クラブと3大学の12団体が9ヶ所のエリアで活動しています。毎年、県連主催の安全講習会や指導者講習会を開催し県内のフライヤーに正しい知識と技術を提供。今年さらに体育協会からの指導者講習を検討中です。詳細は県連ホームページで。
<http://www.skysports.or.jp/fhf/index.htm>

今春、理事長を会長に変更することが決まりました。2004年度会長は山口幸雄氏。県連事務局は以下のとおりです。

〒966-0103 福島県耶麻郡熱塩加納村
 大字加納字五目山16-2

TEL&FAX 0241-36-3363

(三ノ倉PGスクール内) [記: 昆野克昭]

山口県ハング・パラグライディング連盟

[高照寺山スカイセーリングカップ報告]

今年も山口県連と高照寺山スカイセー

リング友の会の合同開催で恒例の「高照寺山スカイセーリングカップ」を、3月14日(日)高照寺山エリアで行いました。当日は天候に恵まれ絶好のフライト日和。テイクオフはやや強めのブローが入っていましたが、合間をぬってBからXCまで全員フライトできました。タスクは山口県連考案の「ピンゴターゲット」3人組になってトータル60分のフライトタイムと、100/200/300点のターゲット得点の合計で順位を決めるものです。どのチームが勝つか最後までわからないのがこのタスクの特徴ですが、今年も楽しませてくれました。スパイラルで降るすもタイムオーバーしてしまう某イントラや、誰の目にも不利と見られていた女性チームが適度にフライトして準優勝するなど、表彰式は、笑いと歓声であふれました。エリアで顔はわかるが話したこともない名前も知らない...をなくすため、親睦を第一にとチーム制にしたのですが、よく知らなかった者同士も、お互いが持つ知識やエリア情報を共有し助け合いながら一日を過ごし、結果としてエリアには連体感が生まれ、その目的は達成されたようでした。

優勝チームは、ハンググライダーの部が浜田朝夫・松浦彩乃・茅島匡チーム。パラグライダーの部が手島亨・原田健次・梶原宏平チームでした。

山口県連ではフライヤーの技能・フライト意識の向上をはかるため、毎年講演会を行っています。今年も大会前日の13日に、ウェザーニュースの内藤邦裕氏を講師に迎え、局所的な上昇風・下降風・海風など、身近な気象変化から予測し安全にフライトするための知識や、気圧配置によるクロスカントリーのためのフライト条件の見方など、2時間を越える素晴らしい講演をしていただきました。

5月22日・23日には大島エリアで、橘町・サマーミーティング実行委員会・当連盟主催の「サザンセト・サマーミーティング・イン・オオシマ(昨年は天候がいまいちで賞金が持ち越しとなっている)」を開催。また7月24日・25日には高照寺山エリアでの「F1高照寺山カップ」も予定されています。ぜひご参加を。

[記: 江本俊信・彌益良生]

宮崎県ハング・パラグライディング連盟

[教員検定会参加推薦基準を制定]

宮崎県のエリアは東向きが多く、スカイスポーツに絶好の季節になりました。宮崎市青島「こどもの国」をメイン会場に5月30日まで「フラワーフェスタ2004」も開催されていますので、皆さん宮崎へ遊びにきてください。

さて宮崎県連では、2月14日の県連理事会において、宮崎県ハング・パラグライディング連盟教員検定会参加推薦基準を制定しました。これはJHF主催の教員検定会への参加推薦基準で、助教員として十分な教習実績と実務経験があることに加え、指導力などのヒューマンスキル等も含まれています。 [記: 福原 稔]

事務局等の変更

石川県フライヤー連盟

FAX番号変更 0761-24-6750

和歌山県フライヤー連盟

理事長交替 向平昭良

熊本県フライヤー連盟

理事長・事務局変更

理事長: 井藤志暢

事務局: (株)阿蘇ネイチャーランド内

〒869-2301 阿蘇郡阿蘇町内牧1092-1

TEL.0967-32-4196 FAX.0967-32-0727

E-mail:natureland@aso.ne.jp

埼玉県ハング・パラグライディング連盟

[第2回フライヤー親睦会の報告]

皆さんこんにちは。3月14日(日)に、埼玉は秩父にある破風山エリアにて埼玉県連主催、第2回フライヤー親睦会を行いました。この会は、大会とは別のスタンスでフライヤーの交流を図ろうと埼玉県連普及委員会が中心となって企画・運営をしてきたものです。

当日の天気は快晴! でも、午後から風が強くなる予報であり、午前中に飛びきって、昼からは広いランディング場を使ってバーベキューをしたり、キックベースでもする予定でした。受付は朝9時30分の告知でしたが、埼玉県人は朝に強いのが9時過ぎからどんどん集まってきました。遊びに来てくれた各ディーラーの皆

さんもほとんど顔を揃えてくれたみたいなので、親睦会開始をトラメガで宣言。

早くテイクオフへ上がりたい気持ちはわかりますが、安全に飛んでもらうため破風山エリアの田島校長よりフライトレクチャーを受けてから、シャトルに乗り込みテイクオフへ!(シャトルの台数が足りず、皆さんに迷惑をおかけしたことは反省材料であります。)

広くて平らなランディング場の中央に1m角のスポンジサイコロを置き、ターゲット競技の始まりです。これが、なかなか踏めない、なかなか両足がつかない……。あと僅かで降りられないときは、野次と共に笑いが絶えませんでした。また、フライヤー各人が様々なアプローチとランディングスタイルを披露し、改めてパ

ラは経験のスポーツであり、状況・地形に応じてフライト技術を使い分けなくてはいけないと再認識しました。

正午近くには、地元フライヤーが高度を上げて東にある皆野高校までミニクロカンを目指したり、テイクオフ前から西側の範囲で何機か毎にサーマルをシェアしたりするコンディションになりました。早めにランディングした人は、先にバーベキューや韓国キムチを使った鍋に舌鼓をうったので、早めにおいしい部分を満喫できたことと思います。また、関東のイベントではよく見かける、うさぎちゃん今川焼もふるまわれ、甘いもの好きな女性陣はちゃっかりお土産分までもらっていました……。

(次ページへ続く)

CIVL 総会報告

オルタネート 岡 芳樹

2月21日・22日、クロアチアのオパティアにてCIVL(国際ハンググライディング & パラグライディング委員会)総会が開催されました。

前日にはワーキンググループによる話し合いがあり、私はパラグライディングのワーキンググループに出席しました。安全上の見地から、FAI(国際航空連盟)カテゴリー1等の競技はシリアルクラス(登録が済んだライダー)のみで行うべきだという提案がありましたが、大会でプロトタイプ事故が多すぎるといってデータはありません。プロトタイプでの大会出場が禁止されていたイギリスでも事故率等の数字は出ていないため、ワーキンググループが調査し、来年の総会で報告することになりました。

総会での主な決定事項は以下のとおりです。

第1回アジア選手権の参加選手資格が下記のように変更になった。

- (1)現在のWPRSの上位1000位までにランキングインしている。
- (2)過去3年間の大会(国内大会も含む)において、30kmを越すフライトを2本以上している。

以上のどちらかを満たしていればよいとする。また、国別ランキングは各競技日の上位3名の合計点を加算して決定することとなった。

マレーシアあるいはポーランドで2005年開催予定であったワールドエアゲームが諸般の事情で取り止めになった。

FAIとWADA(World Anti Doping Agency)の間で基本合意に達しているア

ンチドーピングテストに関して最後の詰めが行われている。この中にはOut-of-Competition Testに関するものがあり、これが承認されると世界のトップパイロットは本人がいつでもいるかをアンチドーピングを管理する機関に常に知らせなければならなくなる。

2005年度パラアキュラシー世界選手権はセルビア・モンテネグロで8月7日から14日に開催される。チームサイズは6人+2人。

2006年夏にアクロバット世界選手権がスイス、ヴィルヌーヴ(毎年ヴェルティエゴを開催しているところ)で開催される。これはパラグライディングとハンググライディング両方の種目で行われる。

詳細はこれから決定する。



パラグライディングのワーキンググループ。



CIVL総会。こちら向きの左から2人が会長。

2006年度パラグライディングヨーロッパ選手権はフランス、モルジーンで開催される。

2006年度ハンググライディングヨーロッパ選手権はクロアチア、オパティア - ビュゼで開催される。

2006年度ハンググライダークラス2・5および女子世界選手権はアメリカ、フロリダで開催され、競技はエアロトーイングで行われる。

役員

会長: Olivier BURGHELLE(F)

副会長: Jim ZEISET(USA)

John ALDRIDGE(GB)

Flip KOETSIER(NED)

Scott TORKELSEN(DEN)

事務局長: Leonard GRIGORESCU(ROM)

財務: Stephane MALBOX(F)

CIVL出席は8年ぶりぐらいでしたが、顔ぶれは変わっているものの、会議の雰囲気はあまり変わっていませんでした。ベーシックなどでは、フライヤーを増やそうという意識があります。安全性についても少しずついろいろなことが決まっています。しかし劇的な決定事項はありませんでした。

国際技能記事の取得条件(課題)改正案が出ていたのですが、そのワーキンググループ担当者が欠席だったため、継続審議になりました。ハードルが高すぎるから、もっと多くの人取得できるように見直そうというものです。

次回のCIVL総会は、2005年の2月第3週末にガテマラで開催される予定です。

(前ページからの続き)

シャトル第二陣で上がった人達も降りて来る頃には、やはり風も強くなりそうな気配があり、全員に昼食をとってもらうためにも、フライトを一時クローズしましたが、夕方前にはまた風もおさまり、フリーフライト希望者は再度テイクオフへ移動を開始。飛ばない方は雑談をしたり、適度な風が吹く中、ディーラーの皆さんのレクチャーを受けながら立ち上げ練習となりました。

フライトを終了し、全員が集まったところで暗くも寒くなる前に閉会式を行い、ターゲット競技で見事優秀な成績を収めた3人の方が副賞を授与されました。そして、遠いところを遊びに来ていただいたディーラーの皆さんから一言挨拶をいただき、次回の埼玉県連のイベントでの再会を約し、閉会をしました。

今回は40名程度も参加があればよいか

なと思っていましたが、当日は65名のフライヤーが来てくれました(一部家族・友人含む)。いつも思うことは、埼玉県連理事会だけでは大したことは行えず、やはり集まったフライヤーの力というのはありがたくもあり、力強くもあり、本当に皆さん来てくれてありがとう!という感謝の気持ちでいっぱいです。そして、会場を使用させてくれた破風山エリアの皆さんには、どう感謝の意を伝えればよいか分かりません。それは、親睦会を受け入れることにより、地元フライヤーのフライトに影響が出るのはわかりきった上で「好きなように使ってもよい」という寛大な申し出であり、当日の回りきれない部分を、飛ばずに何も言わずにサポートする立場にいてくれるからです。こういうのを仲間意識と呼ぶのでしょうか。

ランディング場に目標物を置くと、どんなに飛びがうまい人も半ば強引にその

目標へ降ろそうとするのが見受けられず。降りたからといって百万円もらえるわけでもないし、強引に降ろせたことは、その人が本当に上手なフライヤーであることの証明にはならないので気をつけましょう。目的・意識を持ってフライトするのは良いことかもしれませんが、安全判断が第一義となるフライヤーを目指して、次も楽しい空で会えるように、心も体もバランス感覚のよいフライヤーであってほしいものです(自分は痛い思いをしているので大きなことは言えませんが)。

最後になりましたが、この日、埼玉県内の5エリア・クラブの皆さん、東京都連盟の皆さん、JHF下村理事、各ディーラーの皆さん、その他大勢の人が遊びにきてくれました。次回はどんな会になるか不明ですが、またみんなで集まって楽しい会にしたいと思います。

[記: 理事長 渡辺竜幸]

よりよい組織をめざして

理事に聞く[5]

理事 荒井 稔



JHFの舵取り役である理事一人ひとりに、自らの言葉でその活動を語ってもらいます。今回登場するのは、理事1期目の荒井さん。パラグライディング競技委員会の担当です。

なぜPG競技委員会の担当に？

私自身はあまり大会に出たことがないのですが、以前PG競技委員会の委員だったので、自分から担当になりました。競技は、私たちの大きな課題である普及につながりますね。

今後の課題は？

競技ルールを時代に即したものにしていけるのはPG競技委員会の仕事の一つです。ジャパンリーグに参加している選手たちの意見も取り入れて2004年の新ルールができ、よりよいルールになったと納得していますが、今後も競技者の声を反映したものに随時改定していきたいと思っています。そのために、もっと多くの意見を直接聞きたいと考えています。全員が「これでよし」というルールを作るのは不可能です、人それぞれですから。でも概ねOKというものを作る努力は続けたいと

いけません。

最近、積極的に大会をウチで開催しましょうと手をあげてくれるところが減りました。年間の競技スケジュールを早めに決めて発表すれば、参加者はもちろん、大会主催者もほかの大会との調整ができて助かると思うのですが、ギリギリの開催決定が少なくないので、なかなか実現できません。地道に働きかけをしていく必要がありますね。

2004年度のスタートにあたって一番の問題は、競技委員が2人しかいないことです。これまで連盟活動に加わったことのない人がJHFの委員に立候補するのは、そんなに簡単なことじゃないと思います。それほどJHFが身近ではないということです。JHFや委員会のPRをしたり、選手の意見を聞く場をもっと設けて、自分から委員会に参加しようという意識を持ってもらう工夫が必要です。

なぜ理事に？

時間とお金をやりくりしてフライトを楽しむ「一フライヤー」としての立場をJHFの活動にうまく活かせたら、と思ったからです。ハング・パラグライディング

は、まだまだ普及活動が足りません。広く市民に知ってもらうために、体験会から日本一を競う競技まで、さまざまな普及活動をバランスよくやっていくことが大切です。これらの活動についてみんなの意見を聞いてバランスよくまとめる、そんな働きができれば、と思ったのです。

理事としての慌ただしい1年間に振り返ると、自分の力不足を痛感します。JHFもいろいろな意味でたいへんな時期でした。残る任期は1年弱ですが、これからようやく本腰を入れて活動できると思っています。

荒井さんの理想のJHFとは？

フライヤー会員登録をする時だけJHFを思い出すのではなく、都道府県連盟を通して、あるいは直接、いつでもJHFの活動にふれることができ、JHFの一員であるという意識が持てる。そんなJHFを望みます。今は一般フライヤーとJHFとの接点が少なすぎると感じます。

理事会 ダイジェスト

2003年度第7回JHF理事会

日時：2004年2月11日(水)13:00～17:00

場所：JHF事務局会議室

出席理事：朝日と博、荒井稔、伊賀隆一郎、下村孝一、関谷暢人、瀬戸口裕郎、宮田富由

出席監事：對馬和也

議長：荒井稔

審議事項

1 JHF共済会設立について

JHF共済会の設立助成について決議しました。採決の結果、賛成5、反対0、棄権0で可決。

JHF共済会任意補償制度が発足することで、事故データがJHFへ集まるようになります。これを一括管理することにより、安全対策をより効果的に実施することが期待できます。

2 2004年度事業計画(案)の決定について

一部修正した事業計画案の決定について採決。賛成5、反対0、棄権0で可決しました。計画案の内容は、次のとおり共済会設立と安全普及面を強化するものです。

- ・ JHF共済会の設立を助成する。
- ・ 事故ゼロに向けての対策として、エリアごとの気象情報を提供する、安全関連器具を提供する等の事業を行う。
- ・ 教育啓蒙活動として、教員研修検定会、教員資格更新講習会、安全セミナー等を開催する。また、セーフティノーツ等、安全に関する情報を迅速に提供する。
- ・ JHFウェブサイト充実させる。経費を抑え

るため2004年度に限りJHFレポートの発行を年6回から年4回にする。

- ・ 日本体育協会への加盟推進の一步として、団体デモンストレーション競技の開催に人的支援を行う。
- ・ IT会議を充実させ会議費を削減する等、事務局・委員会運営のスリム化を実施する。
- ・ スクール登録料を5,000円/2年に、優良エリア登録料を30,000円に値下げする。
- ・ A級技能証の発行業務を登録スクールに委託する。
- ・ 公認スクール制度の導入

3 2004年度収支予算(案)の決定について

一部修正した収支予算案の決定について採決。賛成6、反対0、棄権0で可決しました。主な修正点は、以下のとおりです。

- ・ 支出にアジア選手権を盛り込んだ。
- ・ フライヤー会員登録数の減少傾向が落ち着いたため、収入の部、フライヤー会員会費を4800万円から5200万円に。
- ・ 事務局で共済会の業務を引き受けることで管理費を節減。地代、家賃、通信費、人件費の一部を共済会に分担してもらい、2140万円から1860万円に。
- ・ 保険料は、従来の東京海上だけの保険1480万円に、共済会分を盛り込んで1735万円に。
- ・ 補助事業の都道府県事業を、590万円から462万円へ。
- ・ 特定預金支出、世界選手権引当預金150万円としたが、100万円を2004年のアジア選手権に、50万円を2005年の世界選手権へ。
- ・ 正会員に対するスポーツ振興事業費は、今まで一律10万円プラス有効フライヤー数で比

例配布していたが、2004年度は一律部分を5万円にする。

4 定款の一部改正について

活性化対策委員会と定款検討委員会の答申を受けJHF定款の第1条、第13条第2項及び第3項の改正を行うことについて採決。賛成6、反対0、棄権0で可決しました。第4章(役員)第13条の改正については、文部科学省のガイドラインの枠内で、かつ業界関係者の協力をより広く受け入れるようにする。但し、営利事業者の利益誘導にならないよう、第1項に新たに「尚、会長・副会長はこの法人の事業に関する営利を目的とする企業の役員であってはならない」を追加します。

5 3月通常総会の議案について

1号議案に2004年度事業計画案、2号議案に収支予算案、3号議案に定款の一部改正、4号議案に青森県連上提案、5号議案は選挙管理委員改選の決定を求める。以上の議案を総会に上程することについて採決。賛成6、反対0、棄権0で可決しました。

6 任期満了に伴う常設委員会の選任について

HG競技委員会：峰岸正弘、高橋明、鈴木博司、
外村仁克、砂間隆司
PG競技委員会：岡芳樹、高木望
補助動力委員会：星野納、小松園悦、須藤彰、
村上優子、山崎勇光
教習検定委員会：江端邦昭、小林秀彰、下山進、
清水勝
制度委員会：市川孝、小林秀彰
広報出版部：松田保子、東野武史、矢野亥一郎
安全性委員会：調整後、後日決定。
以上を採決の結果、賛成6、反対0、棄権0で可決しました。

委員会の動き

安全性委員会

2003年事故の総括を行いました。

パラグライダー事故の約90%が3年以上の経験者あるいはP証、XC証所有者です。この数字だけでは確実なことは言えませんが、2003年はベテランによる事故が突出していたようです。これは自己の技能の過信や慣れによるところが大きいのではないのでしょうか。グライダーを買い換えれば一からやり直すのと同じです。経験年数が多いからあらゆる状況に対処できるというものではありません。また、DHV等のクラスを鷄呑みにするのも問題でしょう。同じDHV2のグライダーでも、かなり差があるのが事実です。初心に戻り、謙虚になることをお忘れなく。

空中接触事故では、多くの場合ぶつかる直前まで相手を確認していません。また、わりと混雑していない空域で接触しています。つまり油断しがちな環境で接触しています。常に他機警戒をおろそかにしないように心がけてください。

ハンググライダーの事故報告は7件のみで傾向の分析は至難ですが、強いてあげるならランディングでの事故件数が多いことです。ランディング時に適切に風の向きや強さを判断し、グライダーをバランスよく保持する地道なトレーニングが不可欠でしょう。

安全に関する情報、セーフティノーツを随時更新しています。JHFウェブサイトをご覧ください。 [記:岡 芳樹]

教習検定委員会

3月23日から26日まで、静岡県富士宮市朝霧高原で、2003年度JHF教員研修検定会を実施しました。各地で指導活動にあたる助教員20名が参加し、パラグライディング9名、ハンググライディング1名、合わせて10名が全検定に合格しました。新教員の皆さんの活躍を祈るとともに、残念ながら不合格だった皆さんの今後の頑張りを応援します。

当初は11月開催の予定でしたが、他団体の設立に伴い委員が辞任する等の問題が発生し、年度末まで延期する事態となりました。参加を予定されていた皆さんにご迷惑をおかけしたことをお詫びします。また、この研修検定会のために検定員になってくださった方及び協力してくださった中台章氏、片岡義男氏、島野広幸氏、坂本三津也氏、小林秀彰氏、岡芳樹氏に感謝します。

新年度は、教員資格更新時の講習会参加が義務になります。また、飛行技術を含む安全セミナー開催も予定しています。

最新情報はJHFウェブサイトでお知らせしていきますので、ぜひご覧ください。尚、当委員会新メンバーは、江端邦昭、小林秀彰、清水勝、下山進に加えて入選中です。 [記:下山 進]

制度委員会

3月15日のJHF総会決議により、定款13条の変更が承認されました。この変更により、関係営利企業の経営者でも理事人数の三分の一以下であればJHF理事に就任できるようになりました。

制度委員会では、この決定を受けて選挙規約の見直しを行っており、6月の総会に成案を提出する予定です。

新年度は再び市川孝、小林秀彰の2名で活動開始となりました。継続して委員募集中ですので、ぜひ事務局にご連絡を。 [記:小林秀彰]

ハンググライディング競技委員会

3月20日に「板敷スプリングフライト」大会本部で委員会を開き、以下の決定等を行いました。

1. 2005年度HG日本選手権開催地について
2月下旬にJHF理事会にて岩手県遠野市に決定したことを確認。

2. ルールブックの改定
クラス5規則 世界選手権出場選考基準を以下のように改定することを決定。

クラス5 規則
- 9「世界選手権出場選考基準」

現行:12月31日のCIVLランキングから日本人選手のみを抽出してランキングをつけ、上位から出場資格順位まで繰り下げていく。

改定後:クラス5の国内大会の成績をもとに競技委員会にて選考する。

3. クラス1の世界選手権選考基準について
現行の、プレ世界選手権でのいわゆるワイルドカードについて、その規定が妥当かどうか検討。継続課題となった。

4. HG競技会活性化のための活動
メールによるHG競技委員会インフォメーションの復活。高橋明委員が担当。HG競技委員会のホームページに大会等速報ページを増設する。峰岸委員長が担当する。

当委員会は、4月から高橋明、鈴木博司、外村仁克、砂間隆司、峰岸正弘のメンバーで活動します。 [記:峰岸正弘]

パラグライディング競技委員会

2004年度JL(ジャパンリーグ)ルールを改定しました。この改定は、JL参加選手の意見を取り入れ、よりアトラクティブなものにすることを目標にし、かつ国際

大会への日本チーム選考の連続性をも考慮しました。特筆すべき点は、JLに2種類のポイントランキングを導入したこと。一つは従来のものに近く、ワールドポイントランキングと呼ばれます。もう一つは全く新しいものでナショナルポイントランキングと呼ばれます。詳細はJHFウェブサイトをご覧ください。

5月14日から26日まで、韓国のハドンエリアで第1回パラグライディングアジア選手権(FAIカテゴリー1)が開催されます。参加申込者の中から男子17名、女子2名、計19名の日本チーム選手を選抜しました。アジアで初めての大規模選手権が気象条件に恵まれ、日本選手が大活躍することを願います。皆さん、選手たちにご声援を。

4月からのPG競技委員は今のところ、高木望、岡芳樹の2名のみです。引き続き委員を募集していますので、競技をもっと楽しいものにしたい、日本選手のレベルアップのために何かしたいという方、ぜひ委員に立候補してください。ご連絡はJHF事務局まで。 [記:岡 芳樹]

補助動力委員会

2003年度はクレームの少ない年になりました。フライヤーの意識の向上、地域との関係がよい方向に働いている結果ではないのでしょうか。2004年度もさらにより結果を継続できるよう大空を楽しみたいものです。

3月13日に委員会を開催し、新年度の事業方針等を検討いたしました。MPG、MHG本来の滑空プラス動力の持つ可能性を追求し、地域への貢献、飛ぶ楽しみとモラルの啓蒙、空と地上を結ぶスポーツとして環境に対する提言、等を目指して活動してまいります。また、フライヤーのための集い、JHF選手権、教員検定など従来の活動の充実を図ります。

新年度は、小松園悦、星野納、須藤彰、村上優子、山崎勇光のメンバーで委員活動を行います。皆様の支援ならびに提言をお待ちしております。 [記:山崎勇光]

JHF登録スクール

新規登録 No.114
株式会社 阿蘇ネイチャーランド

スクール種別:パラグライダー、モーターパラグライダー

〒869-2301 熊本県阿蘇郡阿蘇町内牧 1092-1

TEL.0967-32-4196 FAX.0967-32-0727

E-mail:natureland@aso.ne.jp

http://www.aso.ne.jp/natureland

@sky

空の情報いろいろありのページ、その名もアット・スカイ。
いつでも心は空の彼方というあなた、必読！ もちろん寄稿も大歓迎。
大会報告、エリア紹介、フライト自慢、名物フライヤー紹介、
JHFへの意見など、どしどし送ってください。
koho@jhf.skysports.or.jp FAX.03-5840-8312

NEWS

JHFウェブサイト刷新

JHFウェブサイトをリニューアル。JHFが提供する最新情報やサービスを、よりわかりやすくカテゴリーごとに区分し、見たい情報へすぐアクセスできるようになった。

事務局への問い合わせが多い項目は「フライヤーサポートデスク」に。委員会関連は「常設委員会」に。何も知らない人にパラグライダーとハンググライダーの飛び方を見せよう動画ページも追加。「どうやって飛ぶの？」と聞かれたら、ぜひご紹介を。まずはJHFサイトにアクセスを！

<http://jhf.skysports.or.jp/>

PGアジア選手権の出場選手決定

第1回パラグライディングアジア選手権の日本代表選手、男子17名、女子2名が決定した。申し込み者の中から選抜された19名は、以下のとおり。

吉川正雄(兵庫県)	上山太朗(大阪府)
星利彦(埼玉県)	柏倉剛(山形県)
児島 敦(広島県)	林 洋一(神奈川県)
金川利幸(兵庫県)	山田則夫(愛知県)
前田 悟(東京都)	内藤 文(大阪府)
西ヶ谷一志(埼玉県)	高木 望(茨城県)
中川喜昭(茨城県)	城所敏浩(神奈川県)
須藤 祥(茨城県)	岩谷勝弘(兵庫県)
川地正孝(神奈川県)	平木啓子(北海道)
河村葉子(大阪府)	

選手権は、韓国のハドンで5月14日から26日まで(当初予定から変更)開催される。アジア初の大連選手権、日本選手の大活躍に

期待しよう。皆さん、熱いご声援を！

HG世界選手権、日本チーム決定

6月5日から18日まで、オーストリアのGreifenburg&Bergで開催されるハンググライディング世界選手権(クラス2・クラス5・女子の3本立て)に出場する日本チームの顔ぶれが以下のとおり決まった。ガンバレ、ニッポン！

クラス5出場パイロット

坂垣直樹(茨城県) 境 卓史(東京都)
山本 剛(神奈川県) 古坂学俊(茨城県)
塩野正光(栃木県)
女子は未定

今年の日本選手権は

冬眠していたフライヤーが地上に？出てくる季節だ。山の雪が消え、冬季クローズだったエリアも次々とオープンしている。そんなエリアの一つ、新潟県吉川町尾神岳でのパラグライディング日本選手権開催が決まった。9月23日から26日までの予定。尾神岳では過去に2回のPG日本選手権が開催されたが、残念ながらどちらも不成立。三度目の正直で、今年こそ！

また、10月24日から30日には福岡県田主丸町耳納山周りでハンググライディング日本選手権を開催。こちらは18年ぶり二度目。

両日本選手権の詳細は、決まり次第JHFウェブサイトに掲載。ぜひチェックを。

あなたもワールドランキングに

CIVLワールドランキングシステムはFAIカテゴリー1または2の大会に出場した選手のポイントランキング。これまではその大

会の三分の二以上の順位でないと言ランキン
グ入りできなかったが、出場者全員を対象
とすることに、3月のCIVL総会で決まった。
ハンググライディングは早速実施すること
に。あなたも世界ランキングの仲間になり
ませんか？ ちなみに、4月5日現在ハング
の世界トップ50に入っているのは、日本選
手権者の大門浩二(36位)と学生選手権者の
永光秀明(46位)の2人。国別で日本は11位(43
名)、1位がフランス(40名)、2位オーストラ
リア(81名)、そして3位はアメリカ(28名)だ。

PG体験会に協力を

神奈川県ハング・パラグライディング連
盟(KHPF)は、ハング・パラグライディング
の普及振興活動に積極的に取り組んでい
る。2003年度に県内の「こどもの国」で主催し
たパラグライダー体験会には、延べ650名が
参加し、延べ168名のスタッフと一緒に浮遊
感を楽しんだ。

神奈川県連は今年度も下記のとおり体験
会を実施の予定で、協力者を募集している。
県外の人も大歓迎とのこと。ぜひご参加を。

第1回 4月11日(日)*終了

第2回 5月23日(日)

第3回 9月12日(日)

第4回 11月21日(日)

第5回 2005年2月20日(日)

会場:こどもの国 子供遊牧場

時間:毎回8:30~16:00

問い合わせ:KHPF普及担当

須藤 TEL.090-3314-3952

BQD11426@nifty.ne.jp

荒井 TEL.090-3133-4886

mkyf@pop21.odn.ne.jp

紹介します! JHSC登録グライダー

国内で使われるパラグライダー・ハング
グライダーは、JHF安全性委員会(JHSC)に
型式登録されるのを知っていますか?今号
から、ちょっと詳しく紹介することに。メー
カー(ディストリビューター)からのおすす
め文句 もあり。

輸入パラグライダー(3月17日登録)

PI-896 TREKKING式 SEBRING S型
AFNOR STANDARD / 翼面積(投影)
23.8m² / アスペクト比(投影) 3.77 / 飛行重量
60~80kg / 適正技能JHF-P証~

PI-897 TREKKING式 SEBRING M型
AFNOR STANDARD / 翼面積(投影)
25.7m² / アスペクト比(投影) 3.78 / 飛行重量
75~100kg / 適正技能JHF-P証~

セブリンは「Fan to Fly」がコンセプト。
ベテランパイロットがストレス無く安

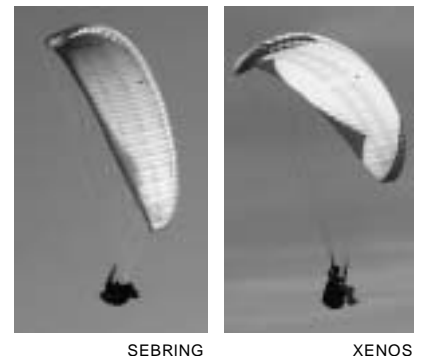
心して操縦に専念できる安定性と、操縦
性、コンベ機にせまる滑空性能は、まさに
スーパースポーツグライダー。充分に経
験を積んだ上級パイロットにお奨め。

輸入パラグライダー(3月17日登録)

PI-898 TREKKING式 XENOS S型
AFNOR STANDARD / 翼面積(投影)
24.5m² / アスペクト比(投影) 3.77 / 飛行重量
65~80kg / 適正技能JHF-A級~

PI-899 TREKKING式 XENOS M型
AFNOR STANDARD / 翼面積(投影)
26.6m² / アスペクト比(投影) 3.77 / 飛行重量
75~95kg / 適正技能JHF-A級~

PI-900 TREKKING式 XENOS L型
AFNOR STANDARD / 翼面積(投影)
28.5m² / アスペクト比(投影) 3.77 / 飛行重量
90~110kg / 適正技能JHF-A級~



SEBRING

XENOS

ゼノスは、ビギナーのトレーニングか
らサーマルソアリングまで最高に楽しく
ステップアップ出来るように設計された
グライダー。イージーな操作性と安定性
を備えながら、ソアリングに必要な滑空
性能、旋回性、浮きの良さを合わせ持つ。

台湾、行くしかないでしょ!

永井隆博

1月と2月に台湾に飛びに行った僕は、とっても楽しい思い出をしてきた。二度の充実したフライトツアーを報告しよう。

のんびり出発、ビールで前祝い

1回目は1月5日から9日までの4泊5日。メンバーは永井、東野、村松の3名。年末から九州にツアーに行って、帰って来たばかりの僕は、内臓がアルコール漬けのまま山梨から東京の村松邸に出発。東野も合流して前夜祭。午後便を予約していたので、翌朝久しぶりののんびりと時間を過ごす。台湾へのフライトは午前便と午後便があり(台北から高雄までの乗り継ぎ便)午後便の方が5,000円ほど安い。成田まで時間がかかる場合は前泊の必要のない午後便の方が便利かもしれない。

16時30分成田発の中華航空機に乗り、台北で乗り継ぎ高雄に22時30分着。空港に蘭陽飛行運動倶楽部のチョウさんが出迎えてくれた。パラグライダーの絵が描かれたハデハデの車でホテルに移動。50分ほどで到着。場所は、三地門脚の南にある水門という小さな町だ。倶楽部の代表の范(ホワン)さんに御挨拶を済ませ部屋に入る。3人部屋に置かれたベッドはどれもダブルベッド。小柄な東野は縦にも横にも寝られそう。村松がコンビニでビールを仕入れて来て、明日からのフライトの前祝いで乾杯。なにはなくてもこれがないと始まらないのだ。

1月6日 フライト初日

朝、范さんに朝食の店に案内してもらおう。バイキングスタイルで十数種類の野菜料理に、肉や魚料理が並んでいる。お皿にてんこ盛りにして、おばちゃんに見せると50元(約150円)と言われる。安い! 肉中心の村松は60元、少量の東野は40元だった。かなりアバウト。

水門から賽嘉(サイチャ)航空公園まで車で約15分、まずはランディング場を確認す

る。いつも使っている場所は地元の祭りの期間中使えないらしい。山裾の少し傾斜した場所で広さは十分だが、赤土がむき出しのいかにもサマーランド出そうな所だ。

テイクオフ場まで車で15分ほど。ゲートで入場料を50元(1人)払い、入場後、7ヶ月間有効のパラグライダー(ハングライダー)テイクオフエリアの入場カードを作る。2人で並んでポラロイド写真を撮り、700元払って手続きは完了。

ランディング場までの高度差は約350m。テイクオフは西向き、午後の方が良さそうなので、午前中はのんびりと他の人のフライトを見学する。日本人フライヤーが20名くらい。正月明けにしては多いのかな? 12時を回った頃からサマーもだいぶ良くなってきた。エリアの特徴は、山際より少し沖の方が良いようだ。山にくっついてがる村松・東野は対応出来るのだろうか?

1時頃まずは僕からテイクオフ。右尾根で数名上がっていたので迷わず右にターンして100mほどゲインした後、左方向の三地山(1053m)の裾の方に移動。やはり山際は動きが悪いので、町のある沖に出すと、弱いながらもサマーをヒット。+1~2mで上がり続ける。約800mゲインした所で、谷を渡って隣の朝日山(900m)に移動。ピークより300mくらい下に取り付きリフトに乗って旋回していると、雲底に白いグライダーを発見。その機体を追い掛けるが、尾寮山(1427m)から次の谷を越えて行くのを見送りランディング場に引き返す。

3時に無事ランディング。約10kmのアウトアンドリターンだ。東野は三地山をトップアウト。村松はブッ飛び2本。水門に戻り僕の46歳の誕生日を祝って乾杯。飛び始めて25年。記憶に残る1日になった。

1月7日 フライト2日目

テイクオフ場に11時に到着。午後が良い

ので、のんびりとお茶を楽しむ(テイクオフ場で無料で提供される)。昨日クロスカントリーに出た豊田氏、早坂さん(中国語が堪能な女性)から情報収集。40km飛ぶと温泉があり、そこで回収車を待たば良いらしい。ランディングは温泉の隣のマイクロライトの飛行場。(その後、約35km先と判明。)

東野、村松、温泉ゴールと聞いて気合が入る。早坂さんに回収用のメモを書いてもらう(とても役に立ちました、謝謝!)。1時を少し回った頃にテイクオフ。昨日ブッ飛びの村松も順調に上げている。東野、村松、永井の順で出発。村松はアクセルを踏み込んでスピードを上げる。先行した東野に村松が追い付いて、朝日山で上昇。雲底は約1500m。上げ切って尾寮山方向にグライドしていく。東野はコースが悪かったのか高度をロスし僕の下に戻って来た。村松は尾寮山に突っ込んでいくが高度を失っていく。僕と東野はその様子を見ながら手前の尾根で高度を獲得。村松、気合が空回りし、そのままランディング。約7km地点。

僕と東野は少し沖を越えて尾寮山をパスし、次の谷を越えてグライドを続ける。その後は尾根上に雲が張って高度をロスしないまま移動。リフトが少しずつ弱くなる中フライトを続けるが、30km地点の河原に2人でランディング。先にゴールして様子を見ていた豊田氏が回収に来てくれ、3人で帰路につく。

その夜、明日こそスパゴールを決めることを誓って乾杯。

1月8日 フライト3日目、最終日

毎日良い天気が続く。フライト確率はかなり高そう。午前中はのんびりを決めこんでいるので、他のフライヤーの飛びを見学。1機だけ上がったグライダーが谷を渡って行く。朝日山の山頂から200mくらい下についた所で旋回中、山に消えた。山沈したようだ。村を上げての大騒ぎになり、回収隊を結成して回収に向かう。(夜10時頃、無事に帰還したそうです。)そんな中、僕達だけクロ



エリアのゲート。ルールが掲示されている。



テイクオフポイント。日本人が多数いた。



小さな雑貨屋さんで電話を借りて記念撮影。



左から、高橋、森、永井、滑川、川嶋。



賽嘉テイクオフポイントと三地山を上空から、東野写す。

カンというわけにもいかないで、1本か
く飛んで終了。夜、屏東の美味しい中華料理
屋に案内され、一同大満足。

翌朝、5時起きで日本に帰る。また来るこ
とを誓って、(リピーターがとて多いの
が頷ける。)

台湾、行くしかないでしょ!

日本に帰って台湾ツアーの参加者を募集
する。気軽に行けて、毎日飛べて、クロカン
も出来て、飯も安くて美味しい、行くしか
ないでしょ! 僕の悪魔の誘いに4人が乗る。
川嶋、森、高橋、滑川だ。ワンボックス1台で動
くので、5~6人が理想的だろう。技術も同じ
ぐらいの仲間の方がより楽しめると思う。

2回目のツアーは2月7日~11日。前回と
同じ4泊5日だ。

2月8日 フライト初日

出発前から少し嫌な予感がしていたのだ
が、天気が良い。今年は1月後半から
パツとしない状態が続いているらしい。日
本人フライヤーが約80人。日本でも滅多に
顔を見ない昔の仲間数名に出会う(九州の
小林さん、名前を間違えてすみませんでした)。曇り空でサマルは期待できないの
で、とりあえずブツ飛びしかない。80人のフ
ライヤーが次々に飛び、この日は日曜日
だったのでギャラリーも多く(約100人)賑
わっていた。

午後、少しの時間だが晴れ間が出て、タイ
ミングを合わせてテイクオフ。200mlほどゲ
インするが直ぐに曇ってジ・エンド。僕が3
本、4人のメンバーは4本フライト。

2月9日 フライト2日目

朝から小雨が降ったり止んだり。天気は
回復する気配がない。ガイドのチョーさん
が、午後は大丈夫と言うので、取りあえずエ

リアに移動。山は真っ白。近くのトンボ玉(空
港で売っているものよりかなり安い値段)
の工房でお茶をして時間をつぶす。エリア
に戻るとテイクオフ場にまだ雲がかかっ
ているが、徐々に上がっているため移動。到着
すると飛ばすような感じ。準備してフライト
開始。雲の吸い上げで小1時間ソアリング。

夜、屏東の屋台街で乾杯。自分の食べたい
物が注文できるようになるには、かなり通
わないと無理かも。

2月10日 フライト最終日

晴れ。80人の情念が雲を飛ばしたようだ。
滑川に「だまされた!」を連呼されていたの
で、僕も胸をなでおろす。テイクオフ場も昨
日までとは明らかに違う雰囲気、皆いき
いきとしている。11時頃から次々とテイク
オフ。僕達は1時過ぎからと決めていたが、
森、高橋はそわそわしている。昼、エリアの管
理者が鍋を振る舞ってくれた。こういうの
がリピーターを増やすのだろう。

1時過ぎに川嶋からテイクオフ、一気に高
度を稼いで行く。高橋が後に続くがサマル
が垂れ高度を失っていく。森、滑川はテイク
オフし順調に上がる。残念ながら高橋
ぶつ飛び。時間的にはまだ十分余裕がある
ので、高橋が戻って来るのを待つ。上空では
川嶋が出発、森が後を追う。滑川は日本でも
クロカン経験が無いので上空でステイ。2時
頃、高橋2本目テイクオフ。が、外す時は大体
こんなもので、ブツ飛び。スパゴールを決め
るには時間的にタイトになる。上空でステ
イしている滑川に、思い出を作っといと
無線で連絡し、後ろは見るなどアドバイス
を送る。

2時40分頃、高橋3本目テイクオフ。僕も続
く。今度は高橋も上がっている。標高1300m
で出発。無線で滑川と連絡を取る。まだ飛ん

でいる、追いつけるかも知れない。しかし尾
寮山の手前で滑川からランディングしまし
たとの連絡が入る。16km地点。先行していた
川嶋、森も、ほぼ同じ場所にランディングし
ていた。僕はスパまで行くと伝え、皆の上空
を通過する。その後も時間のわりにはサー
マルは衰えず順調にフライト。先に降りた3
人も回収車で僕を追いかけけている。最後の
目標の大仏様の上で旋回しながらランディ
ング場を探す(マイクロライトの飛行場と
聞いたので広いのを想像していたが、.....)、
大仏様から1kmぐらい先に発見して上空に
行くと、白い回収車が1足先にゴールした。4
時40分ぐらいに無事着陸。

高橋に無線を入れると、まだ飛んでいる
らしい。かなり近くまで来ているようだ。温
泉にも入りたかったが、暗くなると困るの
で、高橋の回収に向かう。5時過ぎにラン
ディングの報告。20km地点で高橋と合流し
て帰路につく。帰りの車が今日のフライト
話で盛り上がったのは言うまでもない。帰
着後、范さんからゴールの祝福を受けた。

寒い冬は台湾で飛ばに限る

2回のツアーはどちらも大変楽しかった。
台湾の町は、昔の日本にタイムスリップし
たような懐かしさを感じる。参加したメン
パーも、きっとリピーターになるに違いな
い。

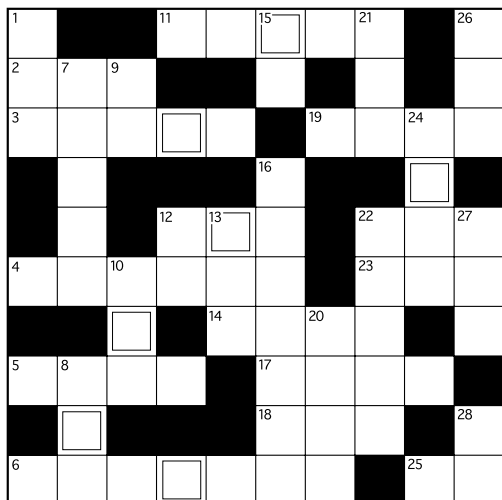
寒い冬は日本を脱出して台湾フライト。
これが日本人フライヤーの定番になるのは
間違いない!

永井 隆博(ながい たかひろ)

福岡県出身。ハンググライダーで飛び始めたの
が25年前。11年前にパラグライダーに出会
う。ハングで九州120km横断、パラで富士山
頂から初のタンデム飛行。「週末は伊豆フラ
イトハウスにいたので遊びに来て!」

クロスワードパズル

問題:二重枠に入った文字を並べてできる言葉(フライト用語)
は何でしょう?



タテのかぎ

- 1 赤い果肉が喉をうるおす果物。
- 7 もくもく煙りが出ること。
- 8 ハリネズミみたいな秋の果物を英語で言うと.....
- 9 地球のほぼ三分の一を占める。
- 10 フライト計器に欠かせない。
- 12 お頭つきといえ.....
- 13 かつてペルー高原を中心に栄えた 帝国。
- 15 山中で出会ったらどうする?
- 16 布と紐でできた翼。
- 20 生命に必要な窒素を含むアミン化合物。
- 21 チャート。
- 22 フライト前の試飲はダメ。
- 24 あなたのエリアにもいる?
- 26 横揺れ。

- 27 化石燃料の が問題に。
- 28 あの人はその道の だ。

ヨコのかぎ

- 2 船が流されないように。
- 3 沈下距離と前進距離の比。
- 4 一度飛び立ったら必ず.....
- 5 これも墜落。
- 6 内外蒙古を統一し蒙古皇帝に。
- 11 飛行機の輪留めを外すのが語源らしい。
- 12 着陸場所が だといいな。
- 14 きちんとロックしたか確認!
- 17 長靴みたいな国。
- 18 大会のウインド 。
- 19 これがないとブツ飛んじやう。
- 22 そば好きにはたまらない。
- 23 私の にエリアができた。
- 25 何か かい?

正解者にプレゼント

問題の答えをEメールかファクスまたはハガキでJHF広報出版部パズル係までお寄せください。今回の賞品は図書券(千円分)です。正解者の中から抽選で3名の方にプレゼント。締切りは5月31日(消印有効)。答え・氏名・住所・JHFフライヤー会員番号を明記してください。Eメールの場合、ファイル添付は無効です。正解は次号で発表します。

E-mail: koho@jhf.skysports.or.jp

FAX: 03-5840-8312

ハガキ: 〒112-0003 東京都文京区春日2-24-11

春日Shimaビル8F

(社)日本ハング・パラグライディング連盟

大会報告

HG関西選手権2004

2月7日～11日

和歌山県那賀郡打田町紀ノ川フライトパーク

1位	大門 浩二	茨城県	2667点
2位	板垣 直樹	茨城県	2407点
3位	永光 秀明	千葉県	2379点
4位	村松 学	茨城県	2003点
5位	大沼 浩	茨城県	1994点
6位	佐々木弘道	千葉県	1940点
7位	氏家 良彦	兵庫県	1852点
8位	岡田 伸弘	静岡県	1850点

4日間の競技であったが天候に恵まれ、全日ゴール者がでる大会となった。

特記すべきは、3日目の橋本橋折り返し56.8kmタスクで5名がゴール達成したこと。彼らの高い技術はエリアの空域をさらに拡大し、他の選手や地域のパイロット達に今後の目標と課題を与えたと思う。また気象条件に対するタスク設定の正確さが本大会を充実した内容の大会にしたと考える。タスク設定の重要性を再認識した大会であった。シリーズポイントが1位74.94になったが、ポイントにふさわしい大会であったと思う。 [報告:外村仁克]

冬季サルオブサルズ2004 in 足尾

2月24日・25日

茨城県新治郡八郷町足尾山エリア

[総合]

1位	原田 知明	ANIMALS	1000.00点
2位	寺田 麻子	ANIMALS	575.79点
3位	牛山 孝夫	ANIMALS	447.01点
4位	片桐 昌哉	超革ハン	270.80点
5位	手塚 武尊	超革ハン	158.11点
6位	原田 哲平	TAKE OF MANIA	138.72点
7位	石松 淳	AIOLOS	57.38点
8位	小松明日美	Flying Chicken	50.85点

[女子の部]

1位	寺田 麻子	ANIMALS	575.79点
2位	小松明日美	Flying Chicken	50.85点
3位	野口 真巳	FALSADA	34.57点

全選手13名という少し寂しい参加人数となったが、東風がしっかりと入った、この時期にしてはよい条件となった。

初日、朝から東風が入り天気もいいことから、早くにテイクオフに上がり準備が進められた。ダミーが上がり始めたのを見て、選手はまだ渋い中どんどんテイクオフしていく。時間が早かったためにサーマルからこぼれてしまう選手もいる中、しっかりとサーマルをつかみきり常に高いところを飛び続けた原田選手が3時間を超す記録で1位に。2位に1時間以上もの差をつけた。

2日目は残念ながら東風が入らず、大会は不成立となり、フリーフライトで終わってしまった。結果は初日に大差をつけた原田選手が優勝となり、見事サルスの頂点に立った。 [報告:田中元気]

丹那ライン2004

3月6日・7日

静岡県丹那エリア・大仁エリア

初日は低気圧の接近で悪天候が予想されたため前日夜の時点でタスクキャンセルとした。2日目は少し強めの風の中10時15分にゲートオープン。30kmのレースタスクで競技がスタートしたものの、トップの選手が最後から2番目のタスクをクリアした時点で強烈な北風が入り込み、タスクキャンセルとした。結果、大会は不成立となった。

[報告:文字英彰]

2004板敷山スプリングフライト

3月17日～21日

茨城県新治郡八郷町板敷山エリア

[総合]

1位	平林 和行	千葉県	1900点
2位	板垣 直樹	茨城県	1875点
3位	大門 浩二	茨城県	1760点
4位	外村 仁克	和歌山県	1712点
5位	今嶋 功	鳥取県	1613点
6位	鈴木 由路	東京都	1592点
7位	大沼 浩	茨城県	1508点
8位	郷田 徹	東京都	1492点

[女子の部]

1位	岡田 明子	静岡県	1058点
----	-------	-----	-------

春の変わりやすい天候のため雨雪や強風に見舞われ、2日しかフライトできなかったが、競技できた日は絶好のコンディションに恵まれ、素晴らしい競技内容となった。

今回は関東平野の立地条件を生かした自在なタスクが設定された。約80～90kmの長

距離タスク、フライト時間は2時間以上が予想され、ゴールするには単に飛行技量だけでなく気象の読みや体力と気力が要求される、海外でも通用するタスク設定であった。フライト日数こそ少なかったものの多くの選手が今回の大会で存分の力を発揮し、競技の楽しさを味わうことが出来たのではないかと自負している。 [報告:大沢 豊]

アサギリ高原スカイグランプリ2004

4月3日・4日

静岡県富士宮市朝霧高原PGエリア

[総合]

1位	星 利彦	埼玉県	1000.0点
2位	山下 敏雄	石川県	960.2点
3位	小幡 洋三	愛知県	922.9点
4位	若山 朋晴	静岡県	916.9点
5位	斎藤 雅一	神奈川県	907.2点
6位	上山 太郎	大阪府	892.1点
7位	伊藤 善規	東京都	841.2点
8位	加賀山 務	静岡県	837.7点

[女子の部]

1位	谷村 淳子	千葉県	7690点
2位	高藤とよ子	大阪府	5248点
3位	田村 康子	神奈川県	5017点

Jリーグ第2戦。初日はかなりきわどいコンディションの中30.9kmのスピードランが組まれた。参加53名中24名がゴールする接戦が展開され、Jとして1本目のタスクが成立。雨乞いをする星選手の願いが叶えられ(?)最終日はキャンセル。初日トップの星選手が優勝した。これまで何度となく優勝戦線に絡みながら優勝のなかった星選手。念願の優勝を獲得し、気分の乗った状態でアジア選手権に挑み、表彰台を目指して欲しい。 [報告:岡 芳樹]

ハングルひとくち講座[1]

5月には韓国でパラグライディングアジア選手権が開催されます。これを機に日韓フライヤーの交流が盛んになるといいですね。言葉は通じなくても一緒に飛ばせば気持ちは通じるでしょう、きっと。でも韓国の言葉で話し掛けることができれば、もっといい。まずはハングルまる暗記作戦、スタート!

講師は、金要燮(キム・ヨソプ)さん。93年に初来日、現在は東京の外語専門学校で勉学中。パラグライディング歴14年。時間ができると足尾山に飛びに行きます。

ブッ飛んじやったの巻

離陸場(イリュクジャン)でいいコンディションですね。

좋은 날 이네요.
(チョオン ナリネヨ)

今日はどの辺がよく上がると思いますか?

오늘은 어느 쪽이 잘 올라 갈 것 같아요?
(オノロン オノチョキ ザル

オルラ カルコツ カタヨ?)

あそこですよ。

저기요.
(チョギヨ)

着陸場(チャンリュクジャン)であなたはいい飛びましたね。

당신은 좋은 비행을 했군요.
(タンシノン チョオン ビヘンオルヘクンヨ)

僕はブッ飛びでしたよ。あーあー。

나는 풀풀이 었어요. 아-아-
(ナムン チョルチョリ ヨッソヨ アーアー)

*ブッ飛び = 풀풀이

(チョルチョリ)

辞書には載っていないフライヤー語できれば使いたくない言葉だなあ。

カレンダー

HGS:HGシリーズ JL:Jリーグ 場:開催場所 連:連絡先
 予定変更にご注意ください。

5月

MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24/31	25	26	27	28	29	30

6月

MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

7月

MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

スカイフェスティバル in
 南陽ハンググライダー - 大会 (HGS)
 4月29日～5月2日

場 山形県南陽市十分一山エリア
 連 TEL:0238-43-2927
 E-mail:nobair@nyc.odn.ne.jp
 第1回アジア選手権 (FAIカテゴリー1)
 5月14日～26日 場 Hadong (韓国)
 連 http://www.flyhadong.com/
 鳴倉カップ (JL)
 5月22日・23日
 場 新潟県北魚沼郡小出町鳴倉山エリア
 連 大会実行委員会 南雲昌孝
 TEL&FAX:025-792-7837
 E-mail:mmym@seagreen.ocn.ne.jp
 パラグライダー尾神カップ (JL)
 5月29日・30日
 場 新潟県中頸城郡吉川町尾神岳エリア
 連 吉川町役場産業課 TEL:0255-48-2311
 E-mail:kankoyg@eco-yoshikawa-t.jp
 ハンググライディング世界選手権
 女子・クラス2・クラス5
 6月5日～18日
 場 Greifenburg&Berg (オーストリア)
 連 http://www.drachenflieger.at
 JHF6月通常総会
 6月23日 場 羽田空港ビックバード

ハンググライディングヨーロッパ選手権
 6月21日～7月3日 場 Millau (フランス)
 連 http://millauclassic.free.fr/
 パラグライディングヨーロッパ選手権
 6月30日～7月11日 場 Kalavrita (ギリシャ)
 連 http://www.hellenic-paragliding.gr/pwcc/
 第5回岡山フライトフェスティバル
 7月25日 場 岡山県笠岡エリア
 連 TEL:0867-98-3400
 E-mail:set@mx1.tiki.ne.jp
 猪苗代パラグライダーカップ
 8月7日・8日
 場 福島県猪苗代国設スキー場エリア
 連 TEL:0242-63-0220
 E-mail:info@sportspal.co.jp
 PGスチューデントチャンピオンシップ
 8月中旬
 場 新潟県中頸城郡吉川町尾神岳エリア
 連 TEL:025-548-2312
 E-mail:kankoyg@eco-yoshikawa-t.jp
 十ノ瀬山かもしかカップHG大会
 8月28日・29日 場 秋田県十ノ瀬山
 連 TEL・FAX:0186-54-0015
 最新情報はJHFウェブサイトへ

学連だよ!全員集合!!

こんにちは! 新入生勧誘の時期もいよいよピークを迎えていると思いますが、調子はどうでしょうか? ハング・パラ界のより一層の発展のために、あの手この手で頑張っていきましょう!

今回は、年度はじめということで、気になる昨年度のランキングと、先日の学連総会での主な決定事項をお知らせします。

2003年度学生リーグ結果報告 HGリーグ

- [団体]**
- 優勝 EPO (529.46点)
 - 2位 ZEPHYR (506.05点)
 - 3位 ANIMALS (501.92点)

- [1stクラス個人]**
- 1位 永光 秀明 EPO
 - 2位 豊田 良平 EROSPAC
 - 3位 伊藤 宙陸 アイオロス

- [2ndクラス個人]**
- 1位 寺田 麻子 ANIMALS
 - 2位 片桐 昌弥 SHYLPH
 - 3位 原田 知明 ANIMALS

Gリーグ

- [団体]**
- 優勝 アイオロス (687.7点)
 - 2位 EPO (628.0点)
 - 3位 SKY VIEW (544.7点)

- [1stクラス個人]**
- 1位 山下 広輔 SKY VIEW
 - 2位 木下 悟 アイオロス
 - 3位 友澤 一成 EPO

- [2ndクラス個人]**
- 1位 笠井 智子 アイオロス
 - 2位 小口 傑 SHYLPH
 - 3位 椋本 佳宏 EPO

日本学連総会報告

3月15・16日 茨城県板敷エリア

[2004年度役員選出]

以下のように新役員が決まりました。皆さんの応援をお願いします。

- 理事 佐藤 史宏 (日本大4年)
- 副理事 服部 良亮 (京大4年)
- 石毛 龍介 (日本大4年)
- 幸本 宏治 (九州大3年)

[今年度大会開催地]

- HG学生リーグ
- 8月 鏡山カップ 仮(宮崎県)
 - 9月 NASA STUDENT CUP (茨城県)
 - 11月 西学選 (山口県華山エリア)
- 3月 ハング学選 (茨城県板敷エリア)
- PG学生リーグ
- 8月 STUDENT CHAMPIONSHIP (尾神岳)
 - 9月 パラ学選 (白鷹エリア)
 - 10月 スキージャム勝山杯 (福井県)
 - 2～3月 パラフェスタ (場所未定)
- 新人戦については両リーグ共、10月に霊石エリア(鳥取県)で行う予定。また、日程や開催場所は変更になる場合があります。

[学生リーグHPについて]

一時中断していましたが、新しいホームページを現在作成中です。学連の仕事がもっと見えやすくなるような内容にしていこうと思うので、こまめにチェックしてください。

[その他の決定事項]

HG・PGリーグの競技規定変更やその他の決定事項は次号またはHPにて案内していきたいと思っております。お楽しみに!



HGリーグ最終戦、木山さんを中心に選手・役員集合!



Gリーグ最終戦、選手・役員みんなで。来年も頑張るゾ!

学連への連絡は.....
 「学連に加盟したい!」や「もっともっと学連のことを知りたい」などといった学連への意見や応援メッセージはこちらまで。

林田拓己 (広島大学4年)
 e-mail:skylab_1025@hotmail.com

空のかお
その55

牟田園 明さん
(ムタノ アキラ)



牟田園さんはハング・パラサークルに所属する大阪大学3年のハングフライヤーです。またハング学連の役員でもあり、今春学連の総会でHGリーグ関西の担当になりました。周りからは「ムタ」の愛称で呼ばれています。ホームエリアは鳥取県霊石山です。

ハングを始めたきっかけは、大学に入ってサークルから勧誘されたこと。「学生時代にしかできないことをやってみたかった。ハングにはスピードがあり、おもしろそうだからやってみたくなった」と牟田園さん。鳥取砂丘で講習を受け、去年の4月に初飛び。フライト一本一本に全てをかけるという意気込みで、今年2月にはフライト時間50時間でパイロット証を取得しました。

パイロット証取得を機に様々な大会にどんどん出たいと語ってくれた牟田園さんは3月に茨城県板敷エリアで開かれた「板敷スプリングフライト」にウインドダミーとして参加しました。

今後の目標は、大学を1年休学してオーストラリアに行ってハングの修行をしたいとのこと。「ハングとは自分を夢中にさせてくれるものです」と言う牟田園さん、これからも安全に且つ熱い飛びをして頑張ってください。

連絡ノート
JHF
フライヤー

JHFレポートが季刊に

2004年度に限りJHFレポートは年4回発行になりました。できれば今までの隔月刊から月刊にしたいところですが、予算の都合で、2004年度は4月、7月、10月、1月の20日に発行します。発行日の間隔が3ヶ月あいてしまう分、JHFウェブサイト充実させますので、ぜひご利用ください。

JHFウェブサイトリニューアル

JHFのウェブサイトが新しくなりました。知りたい情報がどこにあるかすぐに分かる、とても見やすいデザインになりました。ハング・パラグライディングの動画もあり。「どうやって飛ぶの?」と聞かれたら、JHFウェブサイトをご紹介します。

URL: <http://jhf.skysports.or.jp/>

JHF共済会スタート

4月1日より、JHF共済会がスタートしました。申し込みには、JHFレポートに同封した申込書をお使いください。インターネットでの申し込みもできます。詳しくは「JHF共済会のご案内」が、JHF共済会ウェブサイトをご覧ください。

URL: <http://www.flyaid.org/>

2004年度6月総会

6月23日(水)羽田空港ターミナルビルのギャラクシーホールにて、2004年度6月総会を開催します。傍聴を希望される方は5月31日までにJHF事務局にご連絡ください。

2月・3月のパイロット証取得者

(敬称略 数字は認定日)

パラグライディング	2/24	高木 東	3/22	長橋 秀敏	ハンググライディング	モーターパラグライディング
2/3 松木 千裕	2/25 齋藤 恵子	3/22 山家 春香	2/6 川上 賢一	2/6 前田 巨章		
2/3 大塚亜樹子	2/25 成田 周二	3/22 青木 君治	2/6 宮川 知己	2/6 東田 則夫		
2/3 木下 剛仁	2/25 福田 守	3/22 濱本 龍二	2/6 竹野 元博	2/10 前川 良雄		
2/3 井上 泰樹	2/27 油井 千織	3/24 軽部 清二	2/6 服部 良亮	2/17 佐藤 良雄		
2/4 柳沼 清	3/2 梅本 泰宏	3/24 皆川 浩嗣	2/6 服部 健雄	3/24 黒尾 浩一		
2/6 白石 実賢	3/3 狩野 英行	3/26 田中 博和	2/6 牟田園 明	3/29 咲山 弘		
2/10 横山誠一郎	3/3 河野 綾子	3/30 出口 寿久	2/6 三浦啓太郎			
2/13 長谷部健一	3/9 延々 良文	3/30 大本 勝也	3/18 篠塚 富博			
2/13 新井 行佳	3/9 大塚 康彦	お詫び				
2/13 藤本 純	3/9 大塚 靖男	3・4月号で一部のパラグライディングパイロット証取得者のお名前以下の方々が抜けていました。皆様にお詫び申し上げます。				
2/13 大嶋 孔明	3/16 小原 浩	12/22 河原 陽介	12/24 川崎 美宏	12/25 村田 英孝		
2/13 滝沢 一隆	3/18 杉山 真紀	12/22 橋本 政幸	12/25 濱田 三雄	12/26 大田 真一		
2/13 一場 次雄	3/22 於久 央	12/24 坪井 秀雄	12/25 高松 孝太	12/26 山口 淳一		
2/13 柄沢今朝一	3/22 山崎 秀彦	12/24 見崎喜一郎	12/25 大園 滋人			
2/17 伊藤 幸代	3/22 大齋 栄子	12/24 宮下 文三	12/25 葛田 博			
2/20 難波 泰介	3/22 梶本 泰介					
2/20 橋本 耕一	3/22 大野 賢治					

3月31日までのフライヤー会員登録数

登録年数	1月31日現在の有効登録数	2月の登録数	3月の登録数	3月31日現在の有効登録数
1年		169	225	
3年		141	140	
合計	18,990	310	365	18,687

2月・3月の技能証発行数 ()内の数字は発行数中の女性の人数です。

技能証種類	ハンググライディング			パラグライディング			
	2月の発行数	3月の発行数	3月31日までの発行数累計	技能証種類	2月の発行数	3月の発行数	3月31日までの発行数累計
A証	9(1)	6(1)	12,387	A証	24(7)	25(11)	49,476
B証	7(1)	8(1)	11,953	B証	25(10)	20(8)	44,017
C証	5(1)	4(2)	7,187	NP証	22(6)	41(7)	11,737
P証	7(0)	1(0)	5,102	P証	22(5)	22(4)	20,743
補助動力証	0	0	33	補助動力証	0	1(0)	872
XC証	1(0)	6(2)	1,241	XC証	5(2)	11(2)	4,389
タンデム証	0	0	53	タンデム証	5(1)	5(0)	951
モーターパラグライディング							
				P証	4(0)	2(0)	274

会員登録更新は1年または3年

フライヤー会員登録の更新登録料をコンビニエンスストアでお振込の際、1年分と3年分を二重に入金されると、返金処理に時間がかかります。必ず1年または3年のどちらかを選んでください。

氏名・住所等が変わったら

お名前やご住所が変わったら、すぐJHF事務局にお知らせください。ご連絡がないとJHFレポートをお届けできません。変更届けはJHFウェブサイトからもできますので、ご活用ください。

事務局の夏期休暇のお知らせ

JHF事務局は8月11日(水)から15日(日)まで業務を休みます。お問い合わせや技能証の申請等は早めにお済ませください。

JHF事務局

TEL.03-5840-8311 FAX.03-5840-8312
(電話は月～金曜日9:30～17:30に)
E-mail:jhf@skysports.or.jp

レポート&ウェブサイトにご意見を

JHFレポートやJHFウェブサイトへのご意見・ご要望を事務局広報出版部にお寄せください。

FAX.03-5840-8312

E-mail:koho@jhf.skysports.or.jp

訂正

1・2月号3ページ:今嶋功さんのインタビューのなかで「年間ランキング1位は初めて」とありますが、今嶋さんは1994年に1位になっていました。今回は二度目です。

1・2月号16ページ:フライヤー会員登録数の11月30日現在の有効登録数を18,959名としましたが、正しくは18,946名です。3・4月号が正しい数字。

編集を終えて

新年度がスタートしました。これから空の新人が増える季節、先輩フライヤーには「安全に、楽しく、謙虚に」を徹底していただきたいものです。この4月から広報出版部は松原正幸、東野武史、矢野玄一(期待の新人!)、松田保子の4人で活動しています。JHFレポート&ウェブサイトへの率直なご意見をお待ちしています。 JHF広報出版部 松田保子

最新情報はJHFウェブサイトをご覧ください。

<http://jhf.skysports.or.jp/>

JHFレポート 2004年春号 (No.183)

発行日 2004年4月20日 定価10円
発行 社団法人 日本ハンググライディング連盟
〒112-0003 東京都文京区春日2-24-1 春日Shimazul8階
TEL.03-5840-8311 FAX.03-5840-8312
E-mail:jhf@skysports.or.jp
編集 JHF事務局広報出版部
印刷 日本印刷(株)

この印刷物は再生紙を使用しています。